平成３０年度

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

研究のまとめ

研究主題

「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」

～主体的・対話的で深い学びを通して～

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

目　　次

1　はじめに　　千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会長　　京 相　貢　・・・1

2　千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告
（1）事務局　・・・・・・・・・・・・・・・2
（2）関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会長野大会千葉県提案内容
技術分野　印旛支部　・・・・・・・・・・・・・・3
家庭分野　千葉市支部　・・・・・・・・・・・・・7

3　各部活動報告
（1）研究部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
（2）情報部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（3）中学校部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
①千葉県中学校技術・家庭科作品展
②第 15 回千葉県中学校創造ものづくり教育フェア
③関東甲信越地区中学校技術・家庭科作品展
④第 19 回ものづくり教育フェア関東甲信越地区大会
⑤第 19 回全国中学生創造ものづくり教育フェア
（4）小学校部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

4　各支部活動報告
（1）千葉支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
（2）市原支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（3）習志野支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
（4）八千代支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
（5）船橋支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
（6）市川支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
（7）浦安支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
（8）東葛飾支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
（9）印旛支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
(10) 香取支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
(11) 東総支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
(12) 山武支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
(13) 長生支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
(14) 夷隅支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
(15) 安房支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
(16) 君津支部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

5　平成 30 年度役員・地区理事一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

6　編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

１　はじめに

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会
会　長　　相　京　　貢

平成３０年６月に開催しました，平成３０年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会並びに定期総会が柏市立柏中学校で開催され，多くの先生方のご協力，ご支援により，研究協議並びに総会が盛会裏に終了できましたことを心から御礼申し上げます。

今年度は，現行の学習指導要領で実践してきた成果の検証をするとともに，新学習指導要領が来年度から移行期間に入るため，その準備をする年であったと思います。

全国中学校技術・家庭科研究会の研究主題が〔明日の生活を工夫・創造し，実践する力を育てる「技術・家庭科」の教育の推進〕と定められていることをうけ，本部会の研究主題を「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成～主体的・対話的で深い学びを通して～」と設定し，様々な内容の学習を通してそうした力を実践的・体験的な場面を通して身に付けていくことが本教科の責務であると考えます。そういう成果を発表する場の一つとして，「県中学生創造のもづくり教育フェア」があります。今年は，「創造アイデアロボットコンテスト」，「めざせ！木工の技チャンピオン」「あなたのためのおべんとうコンクール」，「豊かな生活を創るアイデアバックコンクール」の４部門に延べ２８３名の生徒が参加し，日ごろの学習の成果を発表することができました。特に，１１月１０日に千葉県総合教育センターで開催した本審査に出場した生徒たちは，日頃鍛えた技術を惜しむことなく発揮し，素晴らしい作品を仕上げてくれました。また，１２月２日には関東甲信越地区中学生創造ものづくりフェアが新潟県長岡市で開催され，本県からもアイデアロボットコンテスト部門や豊かな生活を創るアイデアバックコンクールにエントリーし，千葉県の代表として頑張り，両部門とも全国大会の出場権を勝ち取りました。これにより，４部門すべてで平成３１年１月２６日に開催された全国中学生創造ものづくりフェアに出場することができました。

さて，昨年６月に開催されました全日本中学校技術・家庭科研究会理事会では，研究部から全国アンケートの調査結果の報告がありました。中でも，技術または家庭科の免許を持ってその教科の専門として指導にあたっているという割合は低く，全国順位がかなり下の方になっています。東京都などの大都市部を除くと，相当厳しい状況に置かれているというのが現状だという報告でした。本県でも教科担任講師で複数校の家庭科の授業を担当したり，臨時免許，許可免許での指導をしているのも事実です。そのような状況の中で，特に技術分野での臨時免許，許可免許者が多いという現状を踏まえ，千葉県教育委員会免許認定講習で技術免許状の取得を活用するとともに，研修会等で中間の絆を深め，資質向上に向けていくことが大切だと考えます。

昨年１０月の関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会・長野大会及び１１月の全日本中学校技術・家庭科研究大会・佐賀大会においては，両県の研究主題や授業内容とも新学習指導要領を見据えたすばらしい提案と実践が見られました。そして文部科学省の教科調査官からも「技術・家庭科の見方・考え方」，「主体的・対話的な深い学び」について丁寧な解説がありました。私たち技術・家庭科を教える教員は，日々の実践を通して，上記の考え方や取り組みが身に付いていくものと考えます。本教科の指導を通して，多くの生徒たちが将来のための「活きる力」を身に付けてくれることを心から願っています。

また，それぞれの教育現場で様々な工夫をしながら教育実践に携わっていただいている先生方に敬意を表するとともに，益々のご活躍を祈念申し上げます。

２　千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告

（１）事務局

◇研究主題

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成
～主体的・対話的で深い学びを通して～

◇活動重点

１　研究活動の推進と成果の累積に努める
２　小学校家庭科及び中学校技術・家庭科の関連を図る
３　研究・研修活動の推進を図る
４　組織を強化し，機能を円滑にする

◇活動報告

平成３０年
５月１０日（木）第１回役員研修会（県総合教育センター　金工室）
５月２６日（土）全日中技術・家庭科研究会理事会（女子栄養大学　駒場キャンパス）
６月　１日（金）関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会理事会（長野県諏訪市）
６月１４日（木）第１回小学校部会役員研修会（成田市立公津の杜小学校）
６月２９日（金）千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会
東葛飾支部柏大会並びに総会・作品展（柏市立柏中学校）
７月１２日（木）第２回役員研修会（県総合教育センター　金工室）
８月　３日（木）第１５回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア準備及び研修会
（千葉市立幕張西中学校）
８月　６日（月）第３４回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会千葉大会実行委員会
１０月　２日（火）第３回役員研修会（県総合教育センター　本館 605）
１０月　５日（金）第３４回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会千葉大会実行委員会
１０月１７日（水）第１５回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア会場打ち合わせ
１０月２５日（木）関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会長野大会理事会
１０月２５日（木）同　全体会，講演会（諏訪市文化センター）
１０月２６日（金）同　公開授業・分科会（長野県内９分科会）
１１月　７日（水）第３４回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会千葉大会
第３６回千葉県小学校家庭科教育研究大会印旛大会
（成田市立公津の杜小学校）
１１月　９日（金）第１５回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア前日準備
１１月１０日（土）第１５回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア（県総合教育センター）
１２月　２日（日）全国中学生創造ものづくり教育フェア関東甲信越大会新潟大会（新潟県）
平成３１年
１月２６日（土）全国中学生創造ものづくり教育フェア各県事務局長会議
１月２６日（土）第１９回全国中学生創造ものづくり教育フェア
（水元総合スポーツセンター，女子栄養大学）
１月２７日（日）同フェア結果発表，表彰，閉会式（同上）
２月　１日（金）関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会理事会（茨城県水戸市）
２月　８日（金）第４回役員研修会（県総合教育センター　金工室）
２月１３日（水）第２回小学校部会役員研修会（ポートプラザちば）
２月１６日（土）千葉県中学生木工工作作品展準備・審査・展示
１７日（日）　※千葉県木材振興協会主催（青葉の森公園展示室）
３月２４日（日）会計監査，役員選考会（ポートプラザちば）

※平成３０年９月　～　平成３１年３月　各地区作品展開催

（２）関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会長野大会千葉県提案内容

確かな知識と技術を身につけ，社会の変化に対応し，自ら課題を解決し生きる力を育む学習指導のあり方

～小中連携によるプログラミング学習の展開を通して～

千葉県印旛地区教育研究会技術・家庭科研究部会
成田市立西中学校　教諭　笠井　一広

１　はじめに

人工知能が生活の中に入ってきて，今後人工知能が人間の知識を超えるという予測が立てられている。このような情報技術の急速な発展に加え，グローバル化によって社会の多様化が急激に進んでいる。さらに，これからを生きていく子どもたちには「他者と協働して『未来を切り拓いていく力』」「『社会を生き抜く力』～多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的・協働的な力～」や「21 世紀型能力」が必要であると考えられる。そこで千葉県印旛地区では，新学習指導要領の小学校におけるプログラミング学習に着目した。

中学校におけるプログラミング学習は「情報に関する技術」の計測・制御の内容である。今後は小学校で体験的な学習に始まり，中学校での実践的な学習，そして高校・大学へとより高度な学習へと発展していく。そこで小学校と連携し，プログラミング学習を小・中と系統立てて行い，小学校で基礎・基本の内容に重点を置いて指導することで，中学校での実践的な学習がより効果的に行え，中学校で発展的学習に重点を置いて実践することを目指し，本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

(1) 生徒の実態

小学校と連携し系統立てたプログラミング学習の取り組みを，成田市内の３校で実施した。１校は小中一貫義務教育学校（１クラス），１校は１小１中の中学校（１クラス），もう１校は複数の小学校から入学してくる中学校（６クラス）。６年生から中学１年生を対象に実践を行った。

小学校におけるコンピュータの授業に関しては，学習内容が学級担任にゆだねられているため，調べ学習（インターネット検索）が多く，その他の技能・知識に差が出ているように感じた。今回の実践したプログラミング学習では「プログラミング」という言葉は聞いたことはあるが，どういうものかほとんどの児童が知らない現状から授業を進めていくことになった。

(2) めざす生徒像

① 基礎的な知識・技術を身につけ，生活に身近なプログラミングに関心を持つことができる生徒。
② 課題の解決のために処理の手順を考え，これを実生活で活用できる生徒。

(3) 研究仮説

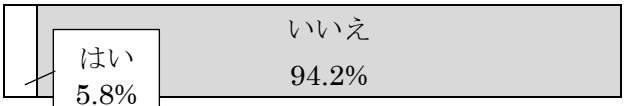
① 小中連携による発達段階に応じた学習を行うことで，プログラミングに対する関心をより高めることができるであろう。
② 協働しながらプログラミングを制作することにより，進んで学び，互いに認め，高め合える生徒の育成につながるであろう。
③ プログラミングの学習を行うことにより，身近な問題を順序立てて考える力を身につけることができるであろう。

３　研究内容

(1) 小中連携によるプログラミング学習

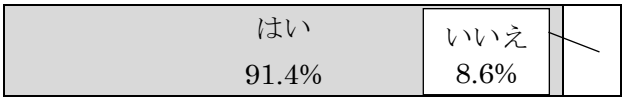
新学習指導要領では小学校でプログラミング学習を実施することになっている。それにともない近隣の小学校の先生にそのことについてアンケートを実施した。（平成２９年８月　３５名調査）

Ｑ１　プログラミング学習の指導のための研修（準備）を行っていますか？

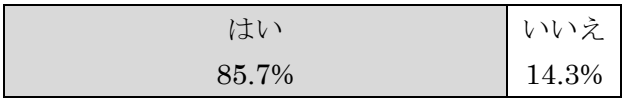


Ｑ２　プログラミングの学習を何の教科で行う予定ですか？

Ｑ３　プログラミングの指導を行うことを不安に思うことがありますか？



Ｑ４　プログラミングの授業の研修等があったら参加してみたいですか？



アンケートより「何をしたらよいのか分からない。」「自分自身がプログラミングを理解していない。」「指導力不足。」「多忙のため教材研究の十分な時間の確保ができない。」という意見が多かった。このような現状から今回は中学校の技術担当教諭が小学校（６年生）で出前授業をするという形で実践した。クラス担任にはＴ２として入ってもらい，何度か事前打ち合わせをしたのちに授業を行った。

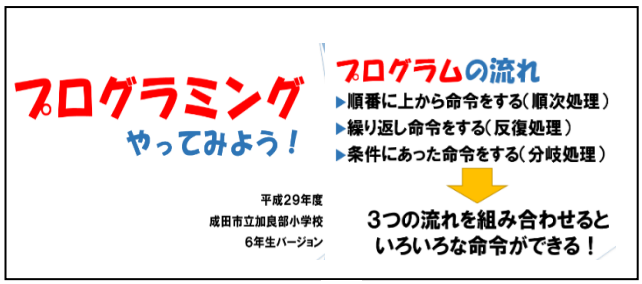
(2) 実践内容

①　指導計画の工夫

中学校においてプログラムによる計測・制御の履修を生徒の発達段階でどの学年で実施するのが最も良いか判断が難しい点はあるが，６年生の３学期から中学に入学後，継続的に学習が進められると考え今回は中学１年のはじめに設定した。

②　小学校での実践内容

小学校でのプログラミング授業では，事前にプログラミングに関するプレゼン資料（画面１）を作り，小学校の学級担任から児童に説明をしてもらい，その後，中学校の技術担当教諭が出前授業を行った。



【　画面１　説明用プレゼン資料の１部　】

使用したプログラミングソフト「スクラッチ(Scratch)」は，マサチューセッツ工科大学が開発した主に子ども向けに利用されているビジュアルプログラミングを用いたプログラミングソフトである。ビジュアルプログラミングとは，パズルを組み立てるように（画面２），ブロックとして用意されている「命令」を，いろいろ組み合わせるものである。命令に必要なブロックをマウス操作だけで作り上げることができ，直感的にプログラミングができるのでスクラッチを選定した。

中学校の授業につなげるために今回小学校で実施した内容は，フローチャート（流れ図）の書き方と「順次処理」「反復処理」「条件分岐処理」の考え方を知ってもらうことを中心に小学校で授業を実践した。

【　画面２　スクラッチの画面　】

③　中学校での実践内容

中学校での実践にあたり，スクラッチに近いビジュアルプログラミングを用いたＫ中と，今まで学習を継承した内容のフローチャート形式のプログラミングソフトを用いたＮ中で行った。

ア　Ｋ中学校実践内容

Ｋ中学校学区は，１小学校（１クラス）からそのまま中学校へ進学してくるため学級編成はなく同じメンバーで授業を進めることができた。

使用した教材は株式会社アーテックの「アーテクロボ」。今回は一人１つのロボットを使用するのではなく，グループで１つの課題に取り組んだ。グループで知恵を出し合いながら（写真１）考える経験を積むことができ，プログラミング的思考力とともに，仲間同士の関わり合いを深めることができた。

【　写真１　】

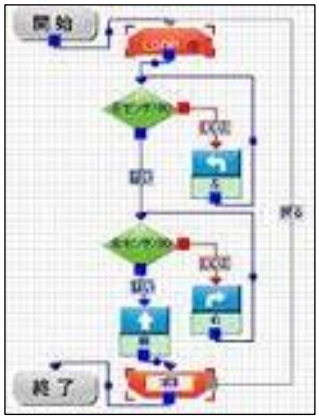
赤外線センサを活用し，壁への衝突を回避させるプログラムの制作（写真２）を行った。小学校では画面上でアニメーションが動くだけだったものが，実際にロボットが意図した通りの動きをすることで，生徒達の興味・関心を高めることができた。またライントレースをする仕組みを説明し，その後プログラムを作ることで，お互いの意見交換や失敗を繰り返しながら粘り強く学習課題に取り組む姿勢を見ることができた。プログラム画面が小学校時に実施したスクラッチの画面とほぼ同じで抵抗無く取り組むことができた。

【　写真２　】

イ　Ｎ中学校実践内容

Ｎ中学校区は，３小学校区（計６クラス）から進学してくる。本研究にあたり１小学校抽出（３クラス）で出前授業を実施して，実施しなかった小学校との違いを検証した。

使用した教材は，ヴィストン株式会社のビュートレーサーを使用した。マイコン・モータ・LEDや地面の白黒を検知する赤外線センサを備えたロボットカータイプの教材ロボットである。専用ソフトウェアを用い，動作や命令のブロックを繋げることでプログラムを作成することができる。フローチャートやアルゴリズムといったプログラミングの基本的な考え方を学ぶことができる。プログラミングはフローチャート形式（画面３）で，命令のブロックをマウスで配置し，矢印で繋いでいくだけで作成できる。小学校では画面上でアニメーションを動かすだけのものが，実際にラインレースカーが命令通りの動いたことで，生徒達の興味・関心を高めることができた。顕著に違いが見られたのはフローチャート（流れ図）の考え方である。出前授業を行った小学校の生徒に論理的に順序立てて考えることができる生徒が多かった。また，出前授業を行っていない小学校の生徒に対し，積極的に教えている姿（写真３）が見られた。



【　画面３　】

【　写真３　】

４　成果と課題

(1) 事後アンケートの結果

Q「プログラミング学習は理解できましたか？」

【表１】小・中学校別アンケート

	よくわかった	わかった	少しわかった	わからなかった
小学校	71.0%	27.0%	2.0%	0%
中学校	32.0%	43.0%	23.0%	2.0%

※小学校：平成 30 年 2 月調査

中学校：平成 30 年 6 月調査

【表２】小学校出前授業経験者別アンケート

	よく わかった	わかった	少し わかった	わからな かった
中学校	39.8% 14.8%	44.1% 42.5%	16.1% 34.0%	0% 8.7%

※上段：小学校出前授業経験者
下段：小学校出前授業未実施者

Q「プログラミングの授業で楽しかった内容はありますか？」
・指示通りに動かすことができた。
・友だち（班）と協力して課題に取り組む事ができた。
Q「難しかった内容はありますか？」
・ライントレースカーのＳ字コース（順次・繰り返し・条件分岐の複合）。
・プログラミング通りに実車が動かず，細かい調整が必要だったこと。
Q「小学校のプログラミング学習は中学校の学習にどのように役に立ちましたか？」
・フローチャートの書き方。
・プログラミングのだいたいのイメージがあったこと。
・パソコンの操作。
・「順次」「繰り返し」「条件分岐」の意味が理解できていたこと。
・友だち（小学校時未経験者）に教えることができて嬉しかった。
Q「今回のプログラミング学習の経験で何か役に立ちましたか？」
・プログラムの手順を考えるようになった。
・パソコンの操作に慣れた。

表１より，小学校ではよく理解していた児童が中学校のプログラミングの授業では理解度が低下している。小学校では画面上でアニメーションを動かすだけの学習であったが，中学校では実際にロボットやライントレースカーを動かし，修正・調整に手こずり思い通りにならず，実機を動かす難しさを感じていた。

(2) 成　果

今回の研究では，小学校へ中学校技術担当教諭が出前授業をするという形でプログラミングの授業を実践した。そのときに「この授業（スクラッチ）ならできそう。」と小学校の先生から声が聞けた。まずは小学校の先生方の苦手意識を無くすことができたと考えられる。

事後アンケート(表２)より小学校時にプログラミング学習を実践した生徒の方が経験していない生徒より理解度が高いことがわかった。

研究仮説①「プログラミングに対する関心を高めることができる。」についてはアンケートより，
・もっと高度なプログラミングをしてみたい。
・ゲームを作りたい。
・社会に出たときに役立てたい。
・自分たちの組み立てたロボットが動くのに興味がある。
など９割近くの生徒はプログラミングに対する関心を高めることができた。

研究仮説②「協働しながら制作することでお互いを認め，高め合える生徒の育成。」については，事後アンケートからもわかるように，わからない生徒は理解している生徒によって課題の解決に導かれ，わかる生徒は分からない生徒に教えることで知識を確実なものにしていたと思われる。

(3) 課　題

小学校でプログラミング学習を実践できたことは成果より意味のあるものであった。

しかし，研究仮説③「順序立てて考える力を身につけることができる。」では「プログラミングは難しい」というイメージを全ての生徒から払拭するのは厳しかった。約１割の生徒がプログラミングに関してあまり好印象でなく，「授業についていくのが大変だった」「考えるのが苦手」「自分には無理と思った」という声があった。日ごろから身近な課題解決のために順序立てて考える経験が技術分野の授業だけでなく必要であると考えられる。

これからも小中連携によるプログラミング学習の効果的な取り組みについて研修する必要がある。目指す生徒像の実現に向けて，今後さらに研究を深めていきたい。

持続可能な社会を目指し，生活を豊かに創造する力を育む学習指導のあり方

千葉市教育研究会 中学校家庭科部会
千葉市立磯辺中学校　教諭　中村聡未

１　はじめに

千葉市教育研究会では，平成 25 年度の全日本・関東甲信越地区中学校技術・家庭科教育研究大会で「身近な消費生活と環境」について，消費者の権利と責任についての消費者の在り方と持続可能な社会を目指した生活の工夫を，３年間を通して身に付ける学習を行った。その研究の成果を引き継いで，ここでは持続可能な社会を目指した住生活の学習に重点を置いて研究する。

家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて，グローバル化や少子高齢社会の進展，持続可能な社会の構築等，今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。そのために，生活を営む上で生じる課題に対して，自分なりの判断をして課題を解決することができる能力，すなわち問題解決能力をもつことが必要である。これを踏まえ，新学習指導要領における「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う」に焦点をあてた研究に取り組んだ。

本研究では，住生活分野における問題解決的な学習を通して，社会あるいは地球規模での視点から生徒自身の生活の在り方を考えさせる。住居は環境問題やエネルギー問題，健康問題等と密接な関係にある。安全や快適に住まおうとする主体的な態度を育てることはよりよい生活の創造のために欠かすことはできない。生徒自身が住生活を総合的に捉え，生活環境の改善の方向性を理解し，住生活の主体者となる態度を育成したい。

２　研究のねらい

(1) 目指す生徒像

① 問題解決的な学習を通して，調査・考察をし，個人の利益だけでなく，社会や環境のことも考えた住生活を意識できる生徒

② 他者の考えを知ることにより，新たな視点も踏まえて自分の住生活について考え，環境や社会に配慮し，行動する生徒

(2) 研究の視点

① 指導計画を工夫し，生徒自らが課題を見付け，解決する力を育む。

② 問題解決的な学習に取り組み，生活を豊かにする力を育む。

③ 持続可能な社会を追究するための基礎的・基本的な指導内容を明確にし，確かな知識の定着を図る。

３　研究内容

(1) 指導計画の工夫

指導計画には持続可能な社会について考える題材を設定し，「計画・実践・評価・改善」の流れを踏まえ，取り組み方を工夫した。

住生活の学習では，「House Change Project」と題し，全８時間の指導計画を立て，実践をした。【表１】１～６時間目では，住まいの役割，家族の健康と室内環境，家庭内の安全や災害への備え，騒音防止等について学習した後，７・８時間目では，ゼロ・エネルギー住宅，日本の伝統的な住まいのよさ，風通しの工夫，地域景観，節水・節電，リノベーション等のテーマで調査する学習を行った。

	学　習　項　目	学習内容・形態	評価規準・評価方法
1	ガイダンス 住まいの様々な役割	・自分の地域の自然条件に適した住まい方 ・住まいのはたらき	・住まいのはたらきを理解している。【知】（ワークシート）
2	共に住まう	・住まいの空間のはたらき **意見交換**	・住まいにはなどがあることに関心をもっている。【関】（ワークシート）
3	家族の健康と室内環境	・室内環境を快適に整えるための工夫 ・室内の空気の汚染の原因と空気調節の方法	・室内の空気の汚染の原因と空気調節の方法がわかる。【知】（ワークシート）
4	家庭内の安全	・室内環境の整え方，安全管理の方法 ・自然災害を含む家庭内の事故の防ぎ方 **意見交換**	・家庭内事故や自然災害への備えなどの視点から室内環境の整え方，安全管理の方法がわかる。【知】（ワークシート）
5	災害への備え	・地域とつながる視点からの安全で快適な住まい	・地域とつながる視点から安全で快適な住まいについて意見をまとめている。【工】（発表・ワークシート）
6	地域に配慮した 住まい方	・音と生活とのかかわり **意見交換**	・音と生活とのかかわりについて理解している。【知】（ワークシート）
7	環境や社会に配慮した 住まい方の工夫①	・環境や社会に配慮した住まい方の調査 **調査・考察**	・環境や社会に配慮した住まい方を調べ，まとめている。【工】（ワークシート）
8	環境や社会に配慮した 住まい方の工夫② まとめ	・自分の住まい方の振り返り ・環境との共生や社会全体を踏まえた視点からの住まい方 **意見交換**	・環境との共生や社会全体を踏まえた視点で住まい方について考え，工夫している。【工】（発表・ワークシート）

基本

実践

表１　題材の指導計画(８時間分)

環境や社会に配慮した住まい方を学ぶことにより，新たな視点を身に付けさせたいと考えた。

(2) 問題解決的な学習の取り組み

題材のガイダンスとして，今の自分の住まいについて気に入っているところ，改善したいところなどを考える時間を設けた。また，学習内容をあらかじめ提示し，生徒が見通しをもって学習をすることができると考えた。毎時間の学習のまとめとして，「自分の住まい方に生かせること」をワークシートに記入することにした。【図１】また，学習を通して知識を得てから，ワークシートを用いて自分の住まい方を振り返ることにより，生徒自身の住生活について考えを深めることができると考えたからである。継続して振り返りの時間を設けることにより，学習内容と実生活を関連付けるように工夫した。

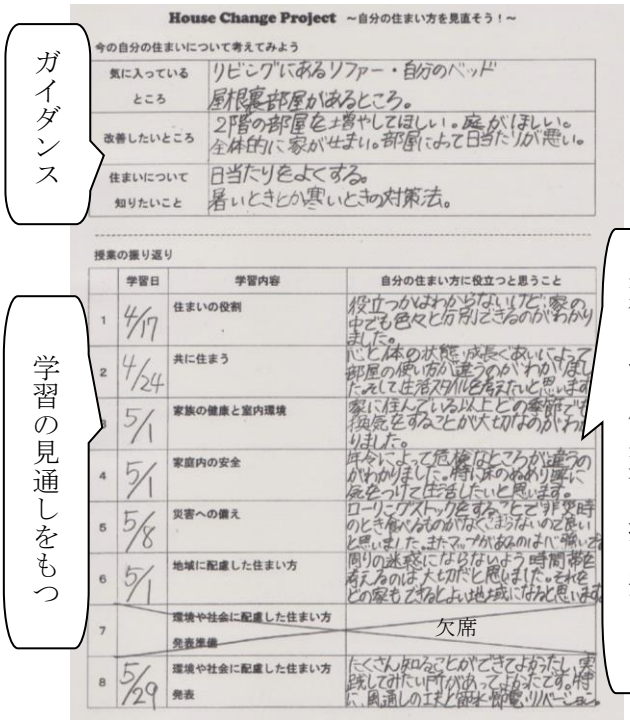


図１　ワークシート(授業の振り返り)

本題材のまとめとして，１～６時間目で習得した知識等を活用し,「環境や社会に配慮した住まい方の工夫」について班ごとに調査や考察を行う授業実践を行った。

[目標]

持続可能な社会の実現に向けて，住まい方を工夫することの大切さがわかり，実現しようとする。

[展開]

【調査テーマ】

環境 「ゼロ・エネルギー住宅」「節水・節電」「風通しの工夫」「日光の取り入れ方」

社会 「日本の伝統的な住まいのよさ」「リノベーション」「地域景観」

調査テーマは環境や社会に目を向けられるようなものとした。生徒が，教員があらかじめ提示したものから前時までの学習を踏まえて興味関心のあるものを選択し，班を決定した。

【調査】

生徒自身が興味関心のあるテーマを選択し,班ごとに調査をし，掲示物にまとめた。【図２】

[調査の視点]

・テーマの説明　・環境に配慮している点

・実践例　・社会に配慮している点

の４つの視点を提示し，調査の観点がぶれないようにした。

[調査方法]

参考資料，文献，インターネットを利用した。

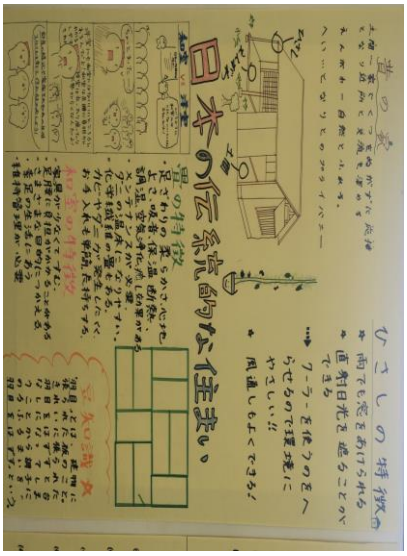


図２　発表資料

【班毎の発表】

テーマについて調べた内容や実践結果を発表した。発表を聞く側は大切だと思ったことやキーワードをワークシートにメモしながら聞き,自分が調べたテーマ以外の情報を得られるようにした。

【発表内容のまとめ】

各班の発表から,それぞれのテーマのキーワードをまとめ,環境や社会に配慮した住まい方の工夫について考察した。また，発表を聞いて，自分の住まい方に生かせることをまとめた。

生徒の記述

・将来，自分の住む家をゼロ・エネルギー住宅にしたいなと思いました。そして，畳やふすまの役割を知ったので，日本の伝統も生かし，うまくリノベーションして,おしゃれですてきな家に住みたいなと思いました。

・節水，節電は日頃から行うことが出来ると思うので心がけていきたい。また，日光や風通しは季節に合わせて工夫をして実践したいと思った。どの住まい方も環境に優しいことだと思うので,出来ることから少しずつ行って，住んでいきたい。

・家でも省エネ，風通しや日光のことも考えて生活したいです。今まで清掃活動などの地域の活動に参加することがなかったので,一度は参加できるようにしたいです。日々の暮らし方を見直して，また新しい暮らし方にも挑戦したいです。

(3) 持続可能な社会を追究するための工夫

(2)の授業実践において，環境や社会に配慮した住まい方の工夫を学習することにより，自分の住生活が，環境や社会に影響を与えることに気付かせることができると考えた。

① 調査テーマの工夫

各班で調査・考察をする中で，以下のキーワードが出てくると予想し，資料の準備をした。【表２】７つの調査テーマを環境と社会に関する住まい方のものにすることにより，住生活が個人の利益のためだけではないということに気付かせた。

テーマ	キーワード
ゼロ・エネルギー住宅	省エネルギー 創エネルギー 太陽光発電
風通しの工夫	節電 扇風機の効果的な使い方 窓の開け方
節水・節電	節水,節電の効果的な方法
日光の取り入れ方	グリーンカーテン ダイレクトゲイン
日本の伝統的な 住まいのよさ	ひさし，ふすまの効果 たたみのよさ
リノベーション	コミュニティの形成 資材の再活用
地域景観	地域の活性化 景観の統一

表２　調査から出てくると予想したキーワード

② House Change Project のまとめとして

全８時間の学習を通して，住生活に関する知識を得て，それを活用し，環境や社会に配慮した住まい方の工夫を考えた。学習のまとめとして，自分の住生活に生かすことを記述する形にした。

生徒の記述

・自分の家も探してみると，多くの改善すべきことが見つかった。特に災害への備えが不十分なので，家具などしっかり点検したいと思う。

・今の暮らし方だけにとらわれずに，昔の暮らし方も取り入れてみたいです。共用スペースの使い方など，家での家族との過ごし方にも注意していきたいです。

・自分の家をよく知った上で，その家に合った改善をすることが大事だと思った。ひとりひとりの心がけが必要！

・お金をかけずにできる工夫はたくさんあると思うので，地球の保護のためにもグリーンカーテンなどをしていきたい。

４　成果と課題

(1) 成果

・授業実践では，調査・発表を通して，自分の立場に置き換えて何ができるかを考えることができた。生徒の学習開始時の考え方から学習後の考え方を比較していくうちに，主体性を高めることができた。

・学習前は，住居や住まい方にあまり意識していなかった生徒が，家族や地域の人と協働して，よりよい生活の在り方や地域社会にも配慮した住まい方についても考えを広げ，深めることができた。

・家庭生活を総合的に捉えながら，持続可能な社会を構築する視点で，それぞれの内容の学習において環境や社会との関わりを考えることができた。

(2) 課題

・問題解決的な学習のベースとして，基礎・基本の定着が重要である。そのためには，指導計画の工夫改善や，基礎的・基本的な内容の定着を図る手立てについて，さらなる研究が必要である。

・話し合いを行う場面の設定だけでなく，意見交換が活発化する方法の検討などを行い，主体的，対話的で深い学びにつなげていきたい。

・授業で得た知識を生かし，生涯にわたってできることを見つけ，実践する「持続可能な価値観」を育てることが重要である。

３　各活動報告

（１）　研究部

１　活動内容

・　学習指導要領の内容についての研究
・　家庭科及び技術・家庭科の指導内容や指導方法の連携についての研究
・　各支部における研究成果を集約した「研究のまとめ」の発行

２　活動日程

平成３０年

５月１０日（木）　第１回役員研修会
５月２６日（土）　全日中「新学習指導要領の移行期間中における技術・家庭科の授業のあり方」（女子栄養大学）　２名参加
６月２９日（金）　研究大会ならびに定期総会千葉大会，千葉県中学校技術・家庭科作品展（柏市立柏中学校）における研修
７月１２日（木）　第２回役員研修会
９月２８日（金）　第１回「研究のまとめ」編集会議
１０月　２日（火）　第３回役員研修会
１１月１０日（土）　千葉県中学生創造ものづくり教育フェアにおける研修
１２月１４日（金）　第２回「研究のまとめ」編集会議

平成３１年

１月　４日（金）　第３回「研究のまとめ」編集会議
１月１５日（火）　第４回「研究のまとめ」編集会議
２月　８日（金）　第４回役員研修会

３　取り組みについて

「研究のまとめ」においては，本年度，項目やページ割りの検討を行った上で発刊した。今後も継続し各部や各支部の活動や研究成果を共有することで，さらに研究を推進し，研究部員である小学校家庭科，中学校技術・家庭科担当教員の資質の向上に努めていきたい。

４　課題

・　学習指導要領の内容についての研修，家庭科における小中連携や技術・家庭科における連携についての研修をさらに深める。
・　「研究のまとめ」の項目，内容をさらに充実させ，研究部員に有効に活用されるものを目指す。
・　今後，次期学習指導要領に関する情報の収集を継続的に取り組まなければならない。

（２）情 報 部

１ 情報部の活動内容

千教研技術・家庭科部会の Web ページ（GI ☆ KA CHIBA）の管理・更新を主な活動とする。

（１）各支部のページについて

① 各支部からの更新データ（題材例など）について，登録（更新）とメニューへのリンクを行う。また，要請に応じて各支部 Web ページ作成の支援を行う。

② 支部ページのデータ収集やページの作成，更新データの送付は各支部の責任で行う。

（２）その他のページについて

① 主催・共催行事等の案内を中心に，各部・事務局からの要請により，部員や県外の先生方への情報提供を行う。

② 県総会，ものづくりフェアなどの開催の様子について取材し，Web ページ上で報告する。

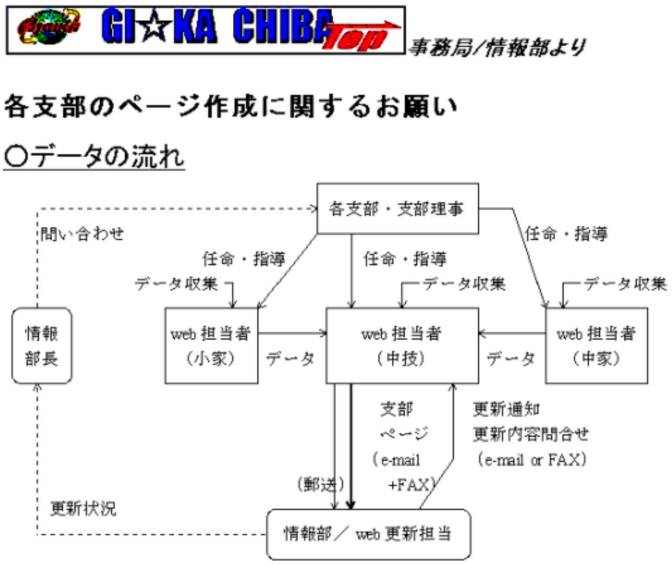
２ 活動日程

（１） ５月１０日（木）第１回役員研修会
（２） ６月 ８日（金）各支部 Web 担当者とりまとめ
（３） ６月２９日（金）定期総会及び研究大会・作品展取材（柏市立柏中）
（４） ７月１２日（木）第２回役員研修会
（５） ８月 ３日（金）各支部 Web ページ担当者研修会
（６）１０月 ２日（火）第３回役員研修会
（７）１１月 ７日（水）小学校関ブロ大会での取材及び Web ページへの掲載
（８）１１月１０日（土）県ものづくり教育フェアでの取材及び Web ページへの掲載
（９） ２月 １日（金）第４回役員研修会
（10） ２月 １６日（土）木工工作作品展取材及び Web ページへの掲載

３ Web ページの更新について

（１）各支部ページの更新について

・支部ページは支部理事の責任で更新する
・Web 担当者は，支部理事の指導のもとに年１回以上の更新を行う。
・支部トピックス（支部の紹介話題，取組等）でデータを充実させる。
・他県や他支部に紹介する題材例の掲載。
・指導上有効な教具などについても積極的に掲載していく。



（２）その他のページの更新について

・他部門の要請があれば専用ページを作成する。

・トップページを中心に，「ものづくりフェア」や研究大会等の情報を随時更新する。

（３）課題

新学習指導要領に適合した，Web ページの修正が数年来の課題である。研修会などを通じて，内容の再確認をお願いしているが，支部から発信されている情報の修正（旧指導要領下の題材例など）がなかなか進まないのが現状である。

また，各支部ページの更新を年１回以上お願いしているが，残念ながら Web ページ更新データを送付いただけなかった支部が多くあった。技術的に Web ページ更新が難しい支部等があれば，個別に対応可能である。

各支部 web ページ用データの送り方（随時登録・更新）

gikachiba.jyoho@gmail.com（千教研情報部専用アドレス）

４ 今年度を振り返って

連年通り，県総会，ものづくりフェアなどについて，開催の案内から開催の報告まで，事務局や中学校部などと連携して，積極的で確実な情報発信に努めることができた。発信方法や内容について，情報部側から提案することもあり，部会内各部の連携を今年度も継続することができた。

今後もより一層（GI ☆ KA　CHIBA）の充実を図るために，各支部 Web ページ担当者や支部理事との連絡を密にして，製作を進めていきたい。また、研修会の折に支部の web 担当者の方々からいただいたアイディアを実現する努力をしていきたい。

【平成３０年度情報部】

部 長 ： 濱 田 勝 久　　所 属： 千葉市立幕張西中学校

部 員 ： 藤 田 伸 平　　所 属： 東庄町立東庄中学校

部 員 ： 七 戸 亮 太　　所 属： 浦安市立日の出中学校

部 員 ： 菅　　整　　所 属： 千葉市立大椎中学校

部 員 ： 深 田 恵 子　　所 属： 千葉市立小中台南小学校

（４）中学校部

①平成３０年度千葉県中学校技術・家庭科作品展（6 月 29 日　柏市立柏中学校）

「平成３０年度千葉県教育研究会技術･家庭科教育部会研究大会並びに定期総会」の開催に合わせて、柏市立柏中学校にて開催しました。各分野の優秀な作品に対して、特別賞（千葉県教育委員会教育長賞、千葉県教育研究会技術･家庭科振興会長賞）を与えるとともに、在校生作品を全国フェア･関東甲信越大会へ出品しました。

平成30年度 千葉県中学校技術･家庭科作品展 入賞者一覧　　※年は製作学年

No	分野	特別賞	内　容	部門	作品名	学校名	支部	年	生徒氏名	出品先
1	技術	県教育長賞	材料と加工	Ⅰ	小物入れ	千葉市立小中台中学校	千葉市	1	塚原　郁	全国
2	技術	県振興会長賞	エネルギー変換	Ⅰ	LEDライトスタンド	船橋市立芝山中学校	船橋	2	竹澤　知恵	全国
3	技術	県振興会長賞	材料と加工	Ⅰ	ＣＤラック	館山市立第二中学校	安房	1	神保　里海	全国
4	技術	県振興会長賞	エネルギー変換	Ⅰ	ＬＥＤ付きＣＤラック	袖ケ浦市立平川中学校	君津	1	井幡　凜	関東
5	技術	県振興会長賞	エネルギー変換	Ⅰ	ＬＥＤ付き本立て	袖ケ浦市立平川中学校	君津	1	関口侑瑞記	関東
6	技術	県振興会長賞	材料と加工	Ⅰ	ＨＹＢＲＩＤ　ＢＯＸ	横芝光町立横芝中学校	山武	2	渡邉　楓斗	関東
7	技術	県振興会長賞	材料と加工	Ⅰ	文鎮	千葉市立花見川中学校	千葉市	3	鶴田　海斗	／
1	家庭	県教育長賞	衣生活と住生活	Ⅱ	幼児の防災ベスト	千葉市立小中台中学校	千葉市	2	多田陽菜乃	全国
2	家庭	県振興会長賞	衣生活と住生活	Ⅰ	防災頭巾	八街市立八街中央中学校	印旛	2	遠藤　海人	全国
3	家庭	県振興会長賞	家族と家庭生活	Ⅰ	輪投げ	茂原市立南中学校	長生	2	伊藤　彩葉	全国
4	家庭	県振興会長賞	衣生活と住生活	Ⅰ	防災リュック	栄町立栄中学校	印旛	2	山口　舞	全国
5	家庭	県振興会長賞	衣生活と住生活	Ⅱ	リュックサック	千葉市立小中台中学校	千葉市	2	庄田　千紘	全国
6	家庭	県振興会長賞	衣生活と住生活	Ⅰ	防災ずきん	習志野市立第六中学校	習志野	1	村田　佳穂	関東
7	家庭	県振興会長賞	衣生活と住生活	Ⅱ	トートバッグ	流山市立おおたかの森中学校	東葛	2	高島　凜	関東
8	家庭	県振興会長賞	衣生活と住生活	Ⅱ	カードケース・ウォールポケット・ベスト・部屋着	千葉市立轟町中学校	千葉市	2	葛谷　友美	関東
9	家庭	県振興会長賞	家族と家庭生活	Ⅰ	コロコロどうぶつたおし	香取市立小見川中学校	香取	3	菅澤　来夢 白鳥　夢侑	／
10	家庭	県振興会長賞	家族と家庭生活	Ⅰ	幼児向け絵本とふれあい	船橋市立宮本中学校	船橋	3	江副華乃子	／
11	家庭	県振興会長賞	家族と家庭生活	Ⅱ	スイーツパラダイス	野田市立南部中学校	東葛	3	創作活動部代表	／

※第１９回全国中学生創造ものづくり教育フェア（平成 31 年 1 月 26、27 日東京都葛飾区水元総合スポーツセンター）

厚生労働大臣賞　「幼児の防災ベスト」　千葉市立小中台中学校　多田陽菜乃

全日本中学校技術・家庭科研究会長賞　「小物入れ」　千葉市立小中台中学校　塚原　郁

（一社）全国中学校産業教育教材振興協会長賞「CD ラック」　館山市立第二中学校　神保　里海

全国市町村教育委員会連合会長賞　「LED ライトスタンド」　船橋市立芝山中学校　竹澤　知恵

「小物入れ」
千葉市立小中台中学校　塚原　郁
[全国作品展　Ⅰ部門出品]

「幼児の防災ベスト」
千葉市立小中台中学校　多田　陽菜乃
[全国作品展　Ⅱ部門出品]

「CDラック」
館山市立第二中学校　神保　里海
[全国作品展　Ⅰ部門出品]

「輪投げ」
茂原市立南中学校　伊藤　彩葉
[全国作品展　Ⅰ部門出品]

「LEDライトスタンド」
船橋市立芝山中学校　竹澤　知恵
[全国作品展　Ⅰ部門出品]

「防災頭巾」
八街市立八街中央中学校　遠藤　海人
[全国作品展　Ⅰ部門出品]

「防災リュック」
栄町立栄中学校　山口　舞
[全国作品展　Ⅰ部門出品]

「リュックサック」
千葉市立小中台中学校　庄田　千紘
[全国作品展　Ⅱ部門出品]

第 15 回千葉県中学校創造ものづくり教育フェア（11 月 10 日県総合教育センター）

（ア）めざせ！「木工の技」チャンピオン

木材加工の基礎的・基本的な技能を競うために、本年度は１３名の生徒が参加し、「小物入れつきいす型飾り台」の製作を行いました。優勝した佐野あすかさんは全国フェア本選へ出場しました。

※全国フェア　林野庁長官賞「幼児のための木材パズルと小箱」　木更津市立木更津第三中学校　佐野あすか

木更津市立木更津第三中学校　佐野あすか
（県知事賞・全国大会出場権獲得）

（イ）「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール

３時間という時間制限の中、決められた大きさの布でポケットやスナップを取り入れたバッグを製作する競技に９名の生徒が参加しました。関東フェアへは上位２名が進出し、さらに中野真里亜さんは全国フェアへ出場しました。

１位　宿町立御宿中学校　中野　真里亜
（県知事賞）

２位　松戸市立六実中学校　小林　結愛
（県会長賞）

1位　御宿町立御宿中学校　中野　真里亜

2位　松戸市立六実中学校　小林　結愛

※全国フェア　全国家庭科教育協会会長賞　御宿町立御宿中学校　中野　真里亜

（ウ）「あなたのためのおべんとう」コンクール

３４チームが参加しました。事前のレポート審査を通過した７チームが、フェア当日に総合教育センター調理室で、腕を競い合いました。その結果、１位のチーム（田子愛優美さん、星野美羽さん、伊藤結さん）が全国フェアへ出場しました。

１位（県知事賞）千葉市立葛城中学校
（田子　愛優美・星野　美羽・伊藤　結）

※全国フェア　女子栄養大学学長賞　千葉市立葛城中学校　田子愛優美、星野美羽、伊藤結

「木工の技」

「豊かな生活を創るアイデアバッグ」

「あなたのためのおべんとう」

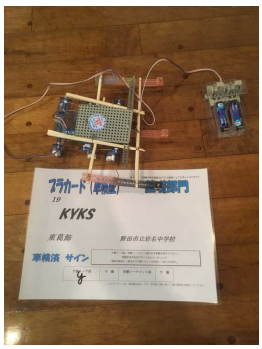
（エ）ロボットコンテスト部門

応用部門に１１チーム、活用部門に１３チーム、基礎部門に２５チームが参加しロボットの性能と操作技術を競い合いました。全ての参加チームの中から１チームが『ロボコン大賞』に選出されました。また、各部門からは、優勝・準優勝チームと審査員特別賞に選出された１チームが関東フェアに出場を果たしました。その結果、応用部門で優勝したチーム（Y.O.L.O）が全国フェアへ出場しました。

基礎部門

１位　千葉市立幕張西中学校
「Ｓ・Ｍ・Ｄ・Ｄ・Ｉ・Ｐ」
（関東大会出場）

２位　野田市立岩名中学校
「ＫＹＫＳ」
（関東大会出場）



特別賞　千葉市立幕張西中学校
「ニコ４」（関東大会出場）
（関東大会ベスト８）

活用部門

１位　千葉市立小中台中学校
「クローバー」
（関東大会出場）

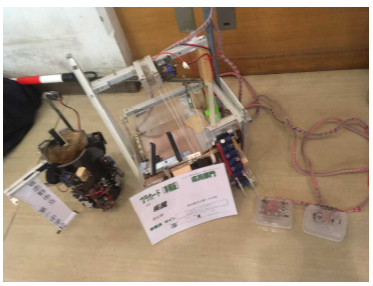
２位　千葉市立小中台中学校
「コンパクト」
（関東大会出場）

特別賞　千葉市立小中台中学校
「はたらくみりん」
（関東大会出場）

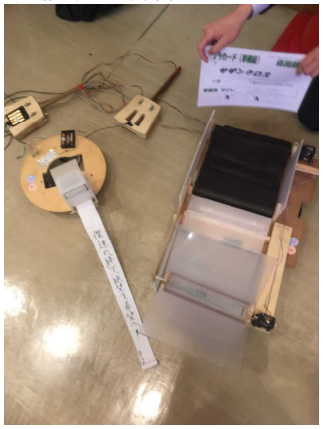
応用部門

１位　千葉市立おゆみ野南中学校
「Ｙ．Ｏ．Ｌ．Ｏ」
（関東大会優勝！全国大会出場）

２位　習志野市立第一中学校
「疾風」
（関東大会出場）



特別賞　千葉市立おゆみ野南中学校
「サザンクロス」
（関東大会出場）



＜各支部の参加状況＞

No.	支部名	ロボコン基礎部門			ロボコン活用部門			ロボコン応用部門			木工の技		アイディアバッグ		お弁当コンクール		
		校数	ﾁｰﾑ数	生徒数	校数	ﾁｰﾑ数	生徒数	校数	ﾁｰﾑ数	生徒数	校数	生徒数	校数	生徒数	校数	ﾁｰﾑ数	生徒数
1	千葉市	1	5	19	2	6	21	1	7	36					2	9	20
2	市原												2	2			
3	習志野	1	1	4	1	4	14	1	2	9							
4	八千代																
5	市川										1	2					
6	船橋	1	1	5	1	1	4				1	2					
7	浦安																
8	東葛	3	10	29	1	2	5	1	2	11	1	1	1	4			
9	印旛	1	6	15							1	2	1	1	2	12	33
10	香取																
11	東総										1	1					
12	山武																
13	長生										1	1					
14	夷隅										2	2	1	2			
15	安房										1	1					
16	君津	1	2	7							1	1			1	13	29

参加生徒数	ロボコン基礎	79	ロボコン活用	44	ロボコン応用	56	木工の技	13	バッグ	9	お弁当	82
283	25 チーム		13 チーム		11 チーム		10校		5校		34校	

＜県ものづくりフェアの結果＞

部門	各賞名	チーム名・生徒氏名	学校名
栄誉ある ロボコン 大賞	県知事賞	疾風	習志野市立第一中学校
ロボコン 基礎部門	1位→県会長賞	S・M・D・D・I・P	千葉市立幕張西中学校
	2位→県会長賞	K・Y・K・S	野田市立岩名中学校
	特別賞	ニコ゜	千葉市立幕張西中学校
ロボコン 活用部門	1位→県会長賞	クローバー	千葉市立小中台中学校
	2位→県会長賞	コンパクト	千葉市立小中台中学校
	特別賞	はたらくみりん	千葉市立小中台中学校
ロボコン 応用部門	1位→県会長賞	Y.O.L.O	千葉市立おゆみ野南中学校
	2位→県会長賞	疾風	習志野市立第一中学校
	特別賞	サザンクロス	千葉市立おゆみ野南中学校
めざせ！ 木工の技 チャンピオン	1位→県知事賞	佐野あすか	木更津市立木更津第三中学校
	2位→県木材振興協会賞	小海川夏波	成田市立久住中学校
	3位→県木材振興協会賞	平島一輝	茂原市立南中学校
豊かな生活を 創る ｱｲﾃﾞｱﾊﾞｯｸﾞ ｺﾝｸｰﾙ	1位→県知事賞	中野真里亜	御宿町立御宿中学校
	2位→県会長賞	小林結愛	松戸市立六実中学校
	3位→県会長賞	中村彩希	松戸市立六実中学校
あなたの ための おべんとう コンクール	1位→県知事賞	田子愛優美・星野美羽・伊藤結	千葉市立葛城中学校
	2位→県会長賞	内山侑香・西間木咲希	千葉市立葛城中学校
	3位→県会長賞	髙橋桃音・髙橋天音	千葉市立蘇我中学校
	学校給食会理事長賞	松尾香苗・西原真依子	千葉市立蘇我中学校
	学校給食会レポート賞	西田奈緒・阿部由奈	四街道市立四街道中学校
	東京ガス 「エコクッキング」賞	長野桜李・黒崎真愛	千葉市立蘇我中学校
	東京ガス 「エコクッキング」 レポート賞	今野絵莉・真板妃菜	木更津市立太田中学校
		相川秀果・矢代彩菜	木更津市立太田中学校
	キッコーマン おいしい記憶賞	大田美那子・吉田千遥・齊藤莉奈	四街道市立四街道西中学校
	キッコーマン レポート賞	坂本潤・大塚亜未香	千葉市立蘇我中学校
	審査員特別賞	大塚明弥・鍋嶋春	千葉市立蘇我中学校
	学校賞		木更津市立太田中学校

（4）小学校部　　（支部数　１２　　会員数　１１２人）

１　千葉県小学校家庭科教育研究会　活動概要

本年度開催された「第３４回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会　千葉大会」並びに「第３６回千葉県小学校家庭科教育研究大会　印旛大会」（以下関ブロ大会）は、お陰様で、一般参加者（資料参加含）３７０名を超える会員を集め、盛会な研究大会となった。本年度は、小学校部（小学校家庭科教育研究会）の活動として、関ブロ大会の記録を残すこととする。

◆　日時　　平成３０年１１月７日（水）

◆　場所　　成田市立公津の杜小学校

◆　授業展開

分野	題材名	学年・授業者	授業会場
家庭科（食物）	おいしいご飯とみそ汁を作ろう	５年・小西　利恵　教諭	家庭科室
家庭科（食物）	１食分の献立を考えて調理しよう	６年・柴﨑　紀子　教諭	多目的室
家庭科（消費・環境）	生活を支える金銭の価値と使い方について考えよう	５年・高橋　堅介　教諭	５年１組教室
家庭科（消費・環境）	モノとの関わりを考えよう	６年・大徳　詩子　教諭	６年２組教室
食育	やさいとなかよくなろう	２年・目黒さや香　教諭 金森三枝子調理師	２年３組教室
食育	さつまいもを知ろう	４年・梅村　晃司　教諭 古川　愛栄養教諭	４年３組教室

◆　研究発表

千葉県研究発表　　千葉市立院内小学校　　鳥羽　波峰教諭

印旛支部並びに成田市立公津の杜小学校研究発表

成田市立公津の杜小学校　佐藤　雅子主幹教諭

◆　分科会

	テーマ	講　師	場　所	グループ数
１	主体的･対話的で､深い学びの実現（食を中心に）	淑徳大学看護栄養学部教授・千葉大学名誉教授　石井　克枝先生	体 育 館	２３グループ
２	持続可能性の教育（消費を中心に）	千葉大学教育学部教授　久保　桂子先生	多目的室	１２グループ

千葉県内から２支部の提案

第１分科会　市原支部　市原市立有秋南小学校　　犬塚　晶子教諭

研究テーマ「食生活に関する学習で学んだことを活用できる授業づくり―５年生で習得した知識・技能を６年生で生かす学習の工夫―」

第２分科会　千葉支部　千葉市立美浜打瀬小学校　君塚　久美教諭

千葉市立あやめ台小学校　宇佐美亜紀子教諭

研究テーマ「学びを生かし、よりよい家庭生活を創る児童の育成―実践的な態度につなげる指導の工夫―」

その後、一般参加者・技術家庭科振興会並びに小学校家庭科教育研究会ＯＧの皆様・公津の杜小学校職員も加わり、公開授業についてのグループ討議を行った。このために、授業参観するにあたっての「授業の視点（２色の付箋紙の活用）」や「授業構想シート」についての解説、１グループごとに「概念化シート」を準備し、テーマに即した話し合い活動が展開できるように工夫をした。このことにより活発で焦点化されたグループ討議を行うことに繋がった。また、食育の

展開授業については、壁に食育授業用の概念化シートを準備し、参観者からの意見を集約した。

◆　全体会

講評　　千葉県教育庁教育振興部学習指導課教育課程室指導主事　　田 邉　暁 子　氏

記念講演

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官
筒 井　恭 子　氏

会場校校長挨拶　　成田市立公津の杜小学校　　江 邨　一 男校長

以上のように関ブロ大会を運営した。本年度の主な活動は、関ブロ大会に向けての「県研究発表並びに各支部研究発表」、「支部研究の掲示資料作成」など、これまでの研究・実践に関わる部分を整理し、広く県内外に示せるようにまとめたこと、また、研究大会の運営と研究紀要・資料集の作成に取り組んだことである。

小学校部では今年の研究大会を１つの区切りとし、次年度からは新学習指導要領の完全実施に向けての新たな研修・実践を展開できるよう努力していきたい。

２　本年度の活動

５月１１日（金）全小家研理事会・関ブロ理事会（国立オリンピック記念青少年センター）
５月２４日（木）関ブロ総務会（もりんぴあこうづ）
６月１４日（木）第１回小学校家庭科授業研究会並びに小学校家庭科教育研究会総会（成田市立公津の杜小学校）
７月２７日（金）関ブロ実行委員会総務会（成田市立公津の杜小学校）
８月　６日（月）関ブロ実行委員会（成田市立公津の杜小学校）
８月２７日（月）関ブロ実行委員会総務会（成田市立公津の杜小学校）
１０月　５日（月）関ブロ実行委員研修会（成田市立公津の杜小学校）
１１月　６日（火）関ブロ実行委員研修会（前日準備）（成田市立公津の杜小学校）
１１月　７日（水）第３４回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会　千葉大会並びに第３６回千葉県小学校家庭科教育研究大会　印旛大会
１１月２９日（木）・３０日（金）　第５５回全国小学校家庭科教育研究会　全国大会　岡山大会
２月　７日（木）国立教育政策研究所　教育課程研究指定校事業研究協議会
小学校家庭発表「成田市立公津の杜小学校」
２月　県小家研だより発行
２月　千葉県小学校家庭科教育研究会総会
２月　関ブロ大会報告書発行・発送
２月２８日（木）関東甲信越地区小学校家庭科教育研究会　理事会（上野）
２月末日　全小家研アンケート終了

３　成果と課題

○　授業研究では、新学習指導要領を踏まえての理論研究とそれに基づく授業実践が展開でき、筒井調査官からも高い評価を得ることができた。これは、ひとえに印旛支部小中家庭科部による長く地道な研究と実践、何よりも公開校である公津の杜小学校の全員体制での研究実践の賜物である。印旛地区・公津の杜小学校は、千葉県の家庭科教育の核となり、その重責を果たした。そして、千葉県内外の家庭科教育の推進と発展のために大きく寄与した。また、印旛地区中学校技術科部にも会場設営・会場校周辺の案内など、多大なる協力を戴いた。小学校の研究大会であったが、小中学校の強い連携・協力が得られたことは大きな成果である。

△　本年度の研究大会をベースに、家庭科教育の裾野を広げ、県内各支部での研究・研修の充実・発展がさらに図れるよう、小学校部としての組織の取組を強めていきたい。

4　各支部活動報告

（１）千葉支部（学校数：５５校　会員数：技術科４８名，家庭科３９名）

技術分野

１．千葉支部研究主題

持続可能な社会を目指して、生活を工夫する力を育む技術・家庭科教育の在り方

２．主題設定の理由

千葉支部（技術分野）では、本教科の目標にある「豊かな生活」を実現するために、社会で求められている「環境にやさしい」生活に対して学校教育ができることを視点に「持続可能な社会」の構築を目指す学習内容の在り方について研究を進めたいと考え、主題を設定した。

学習への関心・意欲の向上や学習した内容を生活に生かすことができるよう、生徒が「身近である」と感じられる題材を設定し、「生活に取り入れたい」と感じられるような授業展開の工夫を取り入れた。生徒が必要な知識、技能を身に付けつつ、「技術の活用」が進められるような技術・家庭科教育の在り方の研究を目指した。

３．研究の概要

（１）研究仮説

【仮説１】３年間を見通し、環境との関連が図れる題材を系統的に配列すれば、課題を解決する力の基礎となる知識・技能の定着が図れるだろう。

【仮説２】実践的・体験的な学習活動の中で、意図的に環境に関連させた学習の場面を増やせば、現代的な課題に対する「技術的な課題解決力」が身に付くであろう。

【仮説３】生徒を惹きつける題材や学習過程の工夫を図れば、学習に対する成就感・達成感が高まり、実践的な態度が身に付くであろう。

（２）仮説の検証

①仮説１について：　１年次から内容Ａについてｶﾗﾏﾂ・ﾄﾄﾞﾏﾂの集成材を利用し製作した。この材料が技術と社会や環境が相互に影響しあう関係にあることを踏まえながら、抱えている多様な課題に対して様々な工夫や配慮がされていることを学習した。また各内容のまとめとして、社会・環境とのかかわりを意識した技術の具体的な評価・活用の方法について考えられるよう指導計画を立てた。（授業実践：高洲第一中学校）

②仮説２について：内容Ａでは森林伐採や間伐材の学習をし、廃材利用の治具を用いた作品の製作、内容Ｂでは「電気のいらない自動ドアの構造」「無動力搬送台車」を扱い、リンク機構や歯車などの機構について深めた。各内容のまとめとして、社会・環境とのかかわりを意識した技術の具体的な評価・活用の方法について考えられるよう指導計画を立てた。（提案校：都賀中学校）

③仮説３について：内容Ｃにおいて、圃場作りから始め、水稲、陸稲の成長の差異や品種の違いからどのように品種改良をしてきたかを考察し、技術の進展や地域による工夫の違いを学習した。（授業実践：葛城中学校）

４．成果と課題

（１）エネルギー有効利用や動力伝達の仕組み考察する授業では、家庭でできる省エネや３Ｒを生徒自ら考えることができた。さらに意見交換することで、個人個人の考えが深まったり、視野が広がったという感想が得られた。

（２）ものづくりにおいて、目的、設計、製作について繰り返し考察することで小課題の製作し自信をつけ、より良い作物を製作する意欲が高めることができた。さらに環境について考える契機となり、社会・環境とのかかわりを意識した感想が得られた。

家庭分野

１．千葉支部研究主題

持続可能な社会を目指し、生活を豊かに創造する力を育む学習指導の工夫

２．主題設定の理由

科学技術の進展が著しく、ライフスタイルも多様化している現在において、技術・家庭科には、社会の変化に対応する力や、日常生活を大切にし、生活を豊かに創造する力の育成が求められている。そのためには、自己の将来をも展望し、より良い生活のあり方について考え実践できる力を培うことが重要である。気候変動や自然環境の変化を考えると、私たちの生活は、持続可能な社会の構築について地球規模で考え、実行に移していくことが必要であると考える。今年度は内容Ａ・Ｂ・Ｃにおいても、持続可能で生活を豊かに創造する力を育む学習指導について研究を進めることとした。

３．研究の概要

（１）研究の視点

研究テーマを解明するために、研究の視点を立てた。

①家庭分野における持続可能な社会のとらえ方

②持続可能な社会をめざす、家庭分野３年間の指導計画の作成

③問題学習的な学習の取組

今年度は、①と③に重点を置いて研究を進めた。

（２）研究の計画・実践

４月　年間計画　（蘇我中学校）

５月　指導案検討　（加曽利中学校）

６月　授業実践　「衣服に合わせた洗濯のしかたを工夫しよう」

加曽利中学校　浜中 麻里　教諭

８月　調理実習の題材研修（新宿中学校）

９月　教材研究　（花園中学校）

１０月　指導案検討　（花園中学校）

１１月　授業実践　「自然災害への備えを考えよう」花園中学校 中村 聡未 教諭

１月　今年度のまとめ・次年度への展望　（椿森中学校）

４．成果（○）と課題（●）

○家庭生活を総合的に捉えながら持続可能な社会を構築するために、内容Ｃ「衣生活・住生活と自立」の学習においても、環境や社会とのかかわりを考えることができた。

○資料や情報を豊富に用意することで、生徒が情報収集や整理をして、主体的に問題解決的な学習を進めることができた。また、話し合い活動を通して、自分の生活の中にどのように生かしていくか考え、深い学びへとつなげることができた。

●多くの資料や情報を用意しても、生徒が自分に必要なものを見つけるのに時間がかかった。個々の課題を解決する学習に取り組ませるときには、個に応じた支援の仕方を工夫する必要がある。

●自分の取組の流れや、授業ごとの思いの変容、成長のようすなど、形として残せるようなノートづくり（ワークシート）の在り方を工夫し、生活や技術についての課題を解決する力や、工夫し創造する態度をより育成していきたい。

（２）市原支部

（学校数　22 校　　会員数　技術科　　１１名　　家庭科　　１３名）

１．　市原支部研究主題

確かな知識と技術を身につけ、社会の変化に対応し、生活に生かす力をはぐくむ学習のあり方

２．主題設定の理由

これまでの研究の過程

技術・家庭科部会では「確かな知識と技術を身につけ、社会の変化に対応し、生活に生かす力をはぐくむ学習のあり方」という研究主題を設定した。急速な社会の変化に対応するためには、自ら課題を見つけ解決できる力を身につける必要がある。人に言われたことを進んで取り組む姿勢だけではその力をつけることはできない。必要なことを自分で判断して取り組む姿勢、いわゆる「生きる力」を育むためには「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点で学習指導の在り方の研究を行うことにした。また、昨年度は「千葉県教育研究会　技術・家庭科研究大会」が国分寺台中学校を会場に開催された、昨年度の研究成果を生かしながら市原市技術・家庭科部会の研究をさらに深めていきたい。

３．研究の概要

月	日	曜日	おもな活動内容
4	19	木	定例集会（国分寺台中学校）
6	4	月	定例集会（国分寺台中学校）　※授業研究
6	29	金	千葉県教育研究会　技術・家庭科研究大会（柏市立柏中学校）
8	22	火	定例集会（三和コミュニティセンター）
10	25,26	木,金	関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会（長野県） ※今年度は資料参加
11	3	金祝	千葉県教育研究集会　（千葉市）
11	11	土	千葉県中学校創造ものづくりフェア（総合教育センター）
11	22	木	定例集会（ちはら台南中学校）
1	19,20	土,日	市原市小中学校技術家庭科作品展覧会（アネッサ）

（１）４月１９日　《定例集会》

・本年度の研究主題及び研究計画の決定

・研究組織および、提案者の確認

（２）６月４日　《定例集会》

・授業研究

（３）６月２９日　《千葉県教育研究会　技術・家庭科研究大会・定期総会・作品展》

（４）８月２２日　《市原市教育研究集会》

【研究発表】　発表者：布施　ちあき（市原市立ちはら台南中学校）

助言者：宮内雅史　指導主事　（南房総教育事務所）

【研究テーマ】　持続可能な社会を目指して、生活を工夫する力を育む学習指導

～グループ学習の提案からエコクッキングの実践まで～

（５）１１月２２日　《定例集会》

・授業研究
・今年度の活動の反省
・来年度の組織について
・技術家庭科作品展に向けて

３．成果と今後の課題

【成　果】

・栄養教諭も部会に複数参加してくれている。教員との知識や体験の共有を図ることで、今後の進展が期待できる。昨年度の千葉県教育研究会技術・家庭科研究大会市原大会を実施し研究組織・研究計画が確立したため、授業研究や研究レポートの作成が組織的に行えた。

【今後の課題】

・部会の人数が年々減ってきている、免許を持っている先生方に部会への参加を促したい。また、計画的に新規採用教員を要望していきたい。
・技術分野のプログラミング教育に関して、新学習指導要領で導入される小学校のプログラム学習との関連を図るため、小学校と連携し、中学校の教員が近隣小学校へ出前授業を実施して行く計画である。
・来年度の作品展の会場が数年ごとに変更になるので、集客力や交通の利便な会場を確保し、運営面で支障が出ないように計画を進めていく。

（3）習志野支部（学校数　9、会員数　技術　7名・家庭科　7名　小学校家庭科　2名）

1．習志野支部研究主題

学びを生かし豊かな生活を創造する技術・家庭科教育
～一人ひとりが生活をよりよくする喜びを実感できる指導をめざして～

2．主題設定の理由

技術・家庭科では、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の習得を通して生活と技術のかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことが目標として掲げられている。また、「家族と家庭に関する教育の充実」「食育の推進の観点から食事の役割や栄養・調理に関する内容の充実」「ものづくり教育の充実等の観点から技術の評価、エネルギー変換や生物育成の技術に関する学習の充実」といった内容の改善について示されている。このように技術・家庭科教育では、今まで以上に社会の変化に対応できる能力の育成が求められている。

社会の急激な変化や情報過多の中で、授業の中で生徒の学習結果がすぐに生きて働く力にはなりにくい今日、知識・技能の習得とともに問題解決に向けて見通しをもって取り組む力をつけていくことの重要性が浮かびあがってきた。生徒が問題にぶつかったとき、自らの力でその問題を解決するためには、問題を分析し、その解決方法を考え、解決に向けて取り組む意欲が持てるかどうかにかかってくる。授業において、生活の様々な場面で生徒が直面する課題を解決するための学習内容の充実と工夫は不可欠であり、学習した内容を積極的に日常の生活に生かし、問題解決能力を高めていくことができるように指導していくことが重要であると考え、この研究主題を設定した。

3．研究の概要

（1）研究計画

回	月　日	内　容	会場
1	4月19日	平成30年度活動計画立案、会員確認、研究内容の検討	第七中
2	5月24日	中学校家庭分野「わたしたちの食生活」指導案検討	第一中
3	6月20日	中学校家庭分野「わたしたちの食生活」授業研究 講師　元習志野市立第一中学校　久保和子先生	第一中
4	8月23日	実技研修 中学校技術分野「アルコールストーブ、五徳、ローチェアの製作」、「圧電素子を利用した作品製作」 中学校家庭分野「家庭科料理技能検定、ペットボトルカバーと小物製作」、「調理実習」持続可能な社会に向けて	船総セ
5	9月18日	中学校技術分野「エネルギー変換の技術」指導案検討	第二中
6	10月16日	中学校技術分野「エネルギー変換の技術」授業研究 講師　習志野市教育委員会　池上吐夢先生	第二中
7	1月29日	研究のまとめ　次年度の計画	第七中

（2）研究内容

①　中学校技術・家庭科（家庭分野）授業研究「わたしたちの食生活」

時配	学習内容と活動	学習形態	教師の指導・支援 評価項目・評価内容・留意点
10	・果汁100％と果汁10％のオレンジドリンクを飲み比べる。	一斉	・本時の授業への興味づけにする。 ・2種類の違いを考える。
	どのように食品を選ぶか考えよう		

20	・食品添加物を加えてオレンジドリンクを作る	班	・加える食品添加物を確認しながら進める。 ・試飲して気付いたことをまとめる。
10	・栄養教諭からの話	一斉	・食品添加物についての説明を聞く。
10	・これからどのように食品を選んでいくかを考える。	一斉	・これからの生活に活かせるように意欲づけをする。

・食品添加物を加えていくだけで、オレンジドリンクが出来上がっていくことに興味を持って取り組んでいた。
・栄養教諭の話が、給食など身近な内容も含まれていたので、よく聞いていた。
・まとめの部分も、自分たちの生活を振り返りながら、表示をよく見て買うようにするなどの意見が出て、学習の深まりが感じられた。

②中学校技術・家庭科（技術分野）授業研究「エネルギー変換の技術」

時配	学習内容と活動	学習形態	教師の指導・支援 評価項目・評価内容・留意点
10	・白熱電球、蛍光灯、ＬＥＤ電球の特長を確認する。	一斉	・それぞれの似ている点や違いに注目させる。
10	場所にあった照明器具を選択しよう。		
15	・グループで各部屋に設置する照明はどれが良いか話し合う。	班	・つける時間、点灯、消灯の頻度などに注目させる。
15	・話し合った結果を発表する。	一斉	・そう考えた理由等もしっかりと説明できるようにさせる。

・電球の特長を考えて、グループごとに良く話し合っていた。
・現在は、ほとんどの照明がＬＥＤになってきており、価格も下がってきている。白熱電球などは取り扱いのない店舗もある。エネルギーを光に変換する仕組みとしての白熱電球が生活の中で使われることが少なくなってきている。基礎基本をどのようにおさえるかの検討。

４　成果と課題

（１）成果

今年度は、中学校技術・家庭科の授業研究が行われた。家庭分野での授業研究は、栄養士部会と合同で行い、家庭科担当教諭と栄養教諭のＴＴで授業が展開された。

一人教科なので日常の授業の中で困っていること、新しい教え方などの情報交換、指導方法等に関しての意見交換や相談などが活発に行われている。学校で、一人で考えるよりもいろいろな考え方等に触れることができ有意義である。

担当教員の中に若年層の割合が増えてきている。こうした先生方が授業研究を行い、ベテランの先生の授業を参観する機会となり、指導力向上に有効な研修となっている。

来年度の関ブロ茨城大会では、他県提案を担当する。提案に向けての準備を部会で検討しながら進めている。話し合いの時間を持つことで準備が進められている。

（２）課題

部会に所属するメンバーがほとんど固定している特に中学校では他校に異動しても市としてのメンバーは変わらない。小学校の先生方の所属は年によってまちまちである。授業研究も毎月６月と１０月と決まっているのでどうしても授業展開の場所が同じあたりになってしまう。特に中学校では後期の授業展開は前期、後期を入れ替えて１週間ほどなので授業研究ができるところまでいかない。どうしてもマンネリ化してきてしまう。自主的な研修をさらに充実させるための手立てを検討していきたい。

（４）八千代支部

（学校数　１１校，会員数　技術科６名　　家庭科６名）

１．八千代支部研究主題

生活や社会で利用される技術の基礎的な理解と技術を身につけ，学んだことを次の学習や生活にいかすことのできる力を育む指導のあり方

２．主題設定の理由

技術・家庭科では，「生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して，生活と技術との関わりについて理解を深め，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことを目標としている。これは，基礎的・基本的な知識や技術を習得するとともに，「考える力」「創造する力」「実践する力」を育み，「生きる力」を身につけさせることをねらいとしている。

これからの社会を生きる生徒にとって，実践的・体験的な学習活動を行う本教科の果たす役割は，非常に大きいと考える。よりよい生活の実現や持続可能な社会を構築するために，習得した知識や技術，考え方を系統的な学習を取り入れること及び，一人ひとりがよりよい生活を工夫し想像するために，自由に思考を膨らませ，意欲的に創造していくことが必要と考え，本主題を設定した。

３．研究の概要

(１)研修の主な内容

① 分野別実践相談（５月）

新年度を迎え、技術・家庭科のそれぞれの分野のこの先の授業へ向けた不安や課題について報告し相談を行った。経験年数や学校の壁を越えて，お互いの不安などを解消することができた。また，免許外での担当や，講師による担当など，本市が抱える課題が明確になった。

② 新学習指導要領に向けて（６月）

来年度から施行される新学習指導要領の実施へ向けて収集した資料をもとに研修を行った。新学習指導要領では技術分野では，「生物育成の技術」の単元の内容が増えている。さらに「情報の技術」の単元においては，小学校でのプログラミング教育を踏まえた指導が求められる。家庭分野では，これまで４つの単元で構成されていたが，「食生活と自立」と「衣生活・住生活と自立」の内容が合わさるような形で「衣食住の生活」という新単元になる。技術・家庭の両分野の新指導内容に関してこの先も継続的に情報を収集し、来年度からの施行へ向けて準備を進めたい。

③ 県総会報告会・構想（７月・１０月）

本市は２年後に県総会の会場となるのでそのための準備を行っている。

技術分野では，3年間を見通した教育課程及び情報教育に関する内容について話し合いを行った。本市は技術科の正規免許で担当している教員が非常に少なく，免許外等での指導で苦労をしている者が多く教科指導に不安を抱えている。そのような課題に対応するべく，市としてのスタンダードを作成して，協力して技術教育を行える体制づくりを目指している。また新学習指導要領より，小学校でもプログラミング学習が始まるなど技術科でもより高度な内容が求められる。そこで，その情報教育をベースとした教育課程の編成に向けて話し合いを重ねた。まだ不透明な部分が多いが，方向性についてはだいぶ明確になってきたので継続して活動を進めていきたい。

家庭分野では，９月から市内全校に設置される電子黒板や ICT 機器を有効に活用できるよう映像教材を作成することにした。7月は「野菜の切り方」を撮影，編集した。１０月には「縫い方」の撮影を行った。小学校で既習の内容である玉結び・玉止め・なみ縫いなども実際はできないまま中学校に入学してくる。全員が基本的な技能を習得できるようにより良い教材を作りたい。このように映像を作ることで，どの学校でも共通した指導ができると考える。また，改めて何をどのように教えるかを部員で話し合い，確認ができた。

④ 八千代市作品展準備要綱検討（１１月）

本年度は２月２３日（土）・２月２４日（日）の 2 日間にかけて八千代市中学校技術・家庭科作品展が開催される。昨年度に引き続き，作品展会場が市民ギャラリーである。生徒を招いて体験的な取り組みを行う講座を設置し，ものづくりの楽しさを味わってもらおうと企画した。昨年度は千葉県職業能力開発協会と共催し，マイスターの方に協力を得て技術・家庭の両分野において体験的な取り組みを行った。今年度も子どもたちにものづくりの楽しさを伝えていただくため，計画的に講座の計画を進めてきたので進捗状況の確認も行った。講座に参加した児童・生徒はとても楽しそうにものづくりを行っていたので，昨年度の反省をいかした活動にしたい。

４．成果と課題

今年度は来年度から実施される新・学習指導要領の実施へ向けた準備の研修が中心となった。新たな学習指導要領解説など様々な資料を持ち寄り，指導内容や指導方法に関しての理解を深めることで来年度からの教科指導へ向けた準備を進めている。来年度は新学習指導要領の実施初年度になるため，今年度の研修内容を踏まえて，新たに出てくる情報なども積極的に取り入れていき，日々の教科指導に励みたい。

来年度の課題としては，引き続き新たな学習指導要領に関する情報を積極的に収集するとともに，実技研修も行い，生徒の「知識・技能」の向上と共にこれからの社会にも対応できる「思考力・判断力・表現力」も培えるような指導力を身につけられるようにしたい。

（５）船橋支部

（ 学校数２７　　会員数　技術科　２１名　　家庭科　１９名 ）

１　船橋支部研究主題

技　術	： 生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成 ～主体的・対話的で深い学びを通して～
家　庭	： 基礎基本の定着をはかり、実生活に活かすための指導法の研究 ～新学習指導要領実施へ向けて～

２　主題設定の理由

（１）技術

日本社会は，グローバルかつ急激な経済発展と技術革新で大きく変貌してきた。特に最先端技術について，持続可能な未来を見据えた地球規模で自然環境との共存を目指したものや社会や経済に対して貢献できるものが多くあり，世界から注目されている。

しかし，いまだに消費社会が振興していて，自らものづくりをする場が減少している。また，学校での技術･家庭科についても，配当授業時数が少なく，技能の習得と深化を図ることが難しくなっている現状である。

このような社会であるからこそ，ものづくりを通して実践的・体験的経験から得るものが多い技術･家庭科の存在意義は重要である。社会の急激な変化に自ら積極的に対応し，生活に生きる力を育むためには，生涯にわたって学習の基礎となるような，知識及び技能を習得させ，さらにその能力を高め習熟させることが大切であり，そのための手だてを研究する意義は大きい。

そこで，３年間の授業を通じて基礎的な知識と技能を繰り返し学習することと，授業の工夫を行うことで，ものづくりに関する能力を定着させるとともに，しっかり作られたものを長く使用することで自然環境の保全を実践し,社会･経済への貢献する態度の育成を図っていく。

また，実習等の結果を整理し考察することや，設計図や回路図といった図表及びものづくりに関する概念などを用いて考えたり，説明したりすることなど，言語を通した学習活動を充実することにより「思考力・判断力・表現力等」の育成を図っていく。

（２）家庭

今日，ほとんどのものが既製品化され，生徒の生活も家事労働の社会化や機械化にともない，家庭における体験が乏しくなってきている。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる時代となった。家庭科の学習は生徒の関心や有用感が高い一方、家庭生活の一員として協力することへの関心が低く、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。その中で、自分らしく，かつ便利に，合理的に生活していくためにも，技術・家庭科の授業が重要になっている。

平成３３年度に新学習指導要領が全面実施となるにあたり、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、実践的・体験的な学習活動を通して，それらに係る技能を身につけさせることを目指す。加えて、生徒が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活の中から見いだした課題を解決する力、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする態度を育成することを目指し、本研究主題を設定した。

3　研究の概要

研究内容　（各月　上段：技術　下段：家庭）　※7/24 は技術のみ

月	日	研究種別	研　究　内　容	会　場
4	25	総会	役員選出・研究主題・年間計画の検討	船橋中学校
5	16	全体研修 全体研修	環境整備及び大型機械・手工具の実技研修 新学習指導要領について研究協議	坪井中学校 市総合教育ｾﾝﾀｰ
6	20	全体研修 授業研究	実技研修「いす型飾り台」の製作方法の検討 富谷沙樹教諭「お気に入りの服を上手に選択しよう（1年）」	行田中学校 三田中学校
7	4	授業研究 全体研究	五島美春教諭「Ｃエネルギー変換の技術（２年）」 新学習指導要領に基づく指導法研究	高根台中学校 市総合教育ｾﾝﾀｰ
7	24	一日研修	【学校法人芝学園芝中学校の視察】	東京都港区
9	26	全体研修	船橋市教育研究大会	市総合教育ｾﾝﾀｰ
10	24	実技研修 全体研修	実技研修「引き出し付き本立て・魚釣りｹﾞｰﾑ」の開発 （株）にんべん　「かつお節とだしについて」	三山中学校 葛飾中学校
11	21	授業研究 授業研究	茂木真人教諭「Ｄ情報の技術（３年）」 大和田千裕教諭「Ｄ 身近な消費生活と環境（１年）」	七林中学校 宮本中学校
1	16	全体研修 全体研修	研究のまとめ・次年度の方向性 つまみ細工体験、五市合同作品展参観	飯山満中学校 浦安市・現代産業科学館
2	6	全体研修 全体研修	実技研修「３Ｄ-ＣＡＤ・３Ｄプリンタの研修」 研究のまとめ・次年度の方向性	二宮中学校 市総合教育ｾﾝﾀｰ

4　成果と課題

（１）技術

①成果

・指導法や製作における工作機械や、手工具の扱いなど、ベテランから若手に対して様々なアドバイスがなされた。若年層の教員の授業における指導力や、技術的な面の成長をみてとることができた。

・学習指導要領改訂に向け、新指導要領に明言されている「３ＤＣＡＤ」や「３Ｄプリンタ」の実技研修を行い、ハード・ソフト両面において、今後どういったものを船橋市として導入していくか検討することができた。

②課題

・学習指導要領の改訂に向けて準備が急務である。

・本年度実施した、「３ＤＣＡＤおよび３Ｄプリンタ」の実技研修を、今後、他社製品についても研修であつかい、最適なものを検討していきたい。

（２）家庭

①成果

・年度当初の新学習指導要領についての研究協議から改訂の要点をおさせ、その後企業や専門家を講師とすることで深い知識の習得や貴重な経験ができた。

・授業研究では、小学校部会との連携により学習内容や指導法の違いに気付き、授業の流れ・展開の仕方や工夫についての領域を広げることができた。

②課題

・最新情報を聞くことができる大学の教員などの講話を聞き、具体的な指導法について家庭科部会で研究する時間を取ることができなかった。

・若年層教員の増加や他教科の応援教員に頼る学校が多く、新学習指導要領に基づいた年間指導計画や評価方法について研究し、示していくことが必要である。

（6）市川支部

（学校数　５７校　　会員数　技術科　１６名　　家庭科　１５名）

１．市川支部研究主題

確かな知識と技術を身につけ、自ら課題を解決していく力を育む学習指導のあり方

２．主題設定の理由

生徒が自ら課題を見つけて創意工夫するためには生徒の学習意欲を高める必要がある。そこで、意欲的に取り組むための題材、教材、教具を工夫し、自らの生活の中で活かせる、基礎的・基本的知識や技術、技能の習得を目標とした学習内容を考えた。一方、学習意欲の向上には教師の指導方法や内容に大きく影響することを踏まえ、継続的に指導方法改善の研究・研修を進めた。

３．研究の概要

（１）技術科分野

月	日	研究種別	研究内容
4	18	総会	部会組織決定、研究主題の決定、情報交換
6	13	定例研	年間計画の作成と検討
9	12	定例研	県大会に向けて、これからの活動について
10	10	定例研	県大会に向けて、各研究部の進捗状況と今後の計画 新指導要領のポイントと教材（講師：教材開発業者）
11	14	ブロック定例研	各中学校ブロックの研究会
1	9	定例研	研究授業　指導案検討
2	6	定例研	研究のまとめ、次年度の方向性の検討

「新学習指導要領」の改訂ポイントについて研修を行った。各項目が「～技術の問題解決」へ変わるなど、その変化とそれに見合った教材選びについて研修することができた。

来年度の研究大会に向けて、ポット栽培として、ペットボトルや袋などを利用しての栽培を行っている。市川支部の研究対象として、ダイコンの袋栽培を定例研技術科部会へ参加している会員で試験的に栽培を行うこととした。各学校で栽培場所・栽培条件を数種類試し、生徒が授業の中で比較・検討できるような資料と整えている。

大根の栽培

桜島大根の栽培

（2）家庭科分野

月	日	研究種別	研究内容
4	18	総会	部会組織決定、研究主題の決定、県大会に向けての検討
6	13	定例研	年間計画の作成と検討
7，8		定例研	研究部別に研修
9	12	定例研	県大会に向けて、これからの活動について
10	10	定例研	県大会に向けて、各研究部の進捗状況と今後の計画
11	14	ブロック定例研	各中学校ブロックの研修会
1	9	定例研	研究大会紀要、授業案の検討
2	6	定例研	研究のまとめ、次年度の方向性の検討

市川市ではこの研究会で、「幼児とのふれあい交流」の学習について研修を行ってきた。研修を通して「幼児とのふれあい交流」は異年齢交流の機会が少ない現代の中学生にとってかけがえのない貴重な体験である事を確認し、来年6月の県研究大会に向けてさらに研究を進めていくことになった。そのため、今年は小学校の先生方が技家部会に参加して下さったのだが、小・中別の研修となってしまった。（ここでは、中学校の研修について記載。）

9月（県大会に向けて、これからの活動について）

夏休みに授業研究部、教材開発・調査研究部、学習資料・環境部に分かれてそれぞれの計画で会議を持ち、研究を進めてきたので、その報告を行った。

授業研究部）夏休みに、授業内容、教材、指導案の検討を行った。それを基に9月に3校で授業を行って見学し合い、さらに授業計画を含めて検討して行く。

教育課程研究部）1学期中に生徒向けと教員向けのアンケートをとり、夏休みにその集計作業と内容の分析を行った。さらに、主題に係わるとりくみの調査を進める。

資料･環境部）夏休み中にふれあい交流の写真を収集。これから実習のある学校にも依頼する。今後は、必要な掲示物や資料を検討して製作して行く。

4、成果と課題

（1）技術科分野

定例研での情報交換や授業実践例などを得て研修を重ね、今後の指導法改善・工夫につなげていきたい。また、業者の方に教材の紹介をしていただくことで我々の新たな教材研究につながってくればと考える。ここ数年から連携している高校との合同研修会を行っているが、県研究大会の準備に向けての研修のため、今年度は実施できなかったので、来年度からも継続して行えるような環境を築き、これからの指導法を考える機会が得られるようにしたい。

（2）家庭科分野

県大会に向けて部会の所属人数も増え、各部での研究も進んできている。また、部会員同士の関係も研修を通して深まってきており、各校1名という立場の私たちにとって、とても心強い場になっている。今年は各校でチャイルドビジョンを使って授業をしてみるなど、同じ教材を使っていろいろな使い方を考える事ができた。今後の研究にも引き継いで行きたいと考えている。

5、まとめ

小中高の連携をとりながら、今の子どもたちに必要な技能を定着させる指導法は何かを常に考え取り組んでいきたい。また、情報交換や研究を重ねていきたい。

（７）浦安支部

（学校数９　会員数１９　技術科　９名　家庭科　１０名）

１　浦安支部研究主題

新学習指導要領に即した教材研究

２　主題設定の理由

新学習指導要領では、教育課程全体を通して育成する資質・能力を「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の３つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この３つの柱で再整理された。

技術・家庭科では、本教科において育む資質・能力として、以下の３点が示された。

（１）生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身につけるようにする。

（２）生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

（３）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

これらの内容を踏まえ、社会で活用できる力を身につけるためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学習過程の組み立てが重要となる。生徒自らが生活や技術に関心をもち、実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動を組み立てる必要がある。自ら問題を見いだし、課題を設定し、解決を図る問題解決的な学習が展開できる教材研究を行う。

３　研究の概要

（１）研究計画

５月　９日（水）日の出中学校　研究テーマ設定と年間研修計画の立案

１０月１７日（水）美浜中学校　技術領域：各校の授業実践の確認
家庭領域：年間計画と指導内容の確認

１１月１４日（水）美浜中学校　技術領域：各校の授業実践の確認
次年度の実践計画
家庭領域：新学習指導要領の内容確認
参考資料の検討

１月１６日（水）浦安中学校　技術領域：来年度の授業実践の確認
次年度の実践計画
千葉県立現代産業科学館
家庭領域：第３０回五市中学校合同技術・家庭科作品展見学

２月　６日（水）美浜中学校　まとめと課題

（２）研究内容

①技術分野

新学習指導要領の「Ｂ　生物育成に関する技術」において、浦安市の地域の

特色として農地がほぼなく、マンションに住んでいる生徒が多い。学校で学んだことを生かそうとしても、屋外で栽培ができる環境ではない。また校内にも畑がない学校も多く、“はち”や“ポット”などを使い、室内（学校によっては屋外）で管理しやすいもので実習を行っている。今年度は、リーフレタスかミニトマトを教材として実践することになっており、各学校の授業実践や資料を活用し研究を進めた。

②家庭分野

新学習指導要領では、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」の３分野に領域が３分野となり、内容も変更、追加されている部分が多くある。したがって、各学校で使用している資料や新学習指導要領の改訂に伴い、出版されている資料などを活用し、新学習指導要領に即した教材研究を行った。

４　成果と課題

（１）技術分野

各学校の実態に応じて、リーフレタス又はミニトマトの栽培を行い、授業実践や資料の確認を行った。同じ教材を使っても、日照条件や風など環境の違いによって生育に差がでることがわかった。サカタのタネの方にもご協力いただき、浦安市の環境では、どういうものを教材として扱い、授業を展開するとよいかご助言をいただいた。

“はち”や“ポット”の教材を用いて、生徒が自ら課題を見つけ考える授業を展開するには、例えばリーフレタスであれば、どのようにしたら収穫量を増やすことができるのか。また、ミニトマトであれば、どのようにしたら糖度を高めたり、実を多くしたり、大きい実に育つかなど、教材の研究と合わせて、日照時間の調整や土の配合、間引きなどを考えさせる基礎的な理解を十分に図る授業も大切である。

次年度については、市販の教材で、どれだけ課題を持たせ取り組ませることができ、実生活に生かすことができるか課題である。

（２）家庭分野

各学校の授業の進め方と教材について情報交換を行った。授業では、話し合い活動を、各分野でどのような場面で活用しているか情報を交換し、その場面が適切であるか検討した。指導内容についても細かく情報交換をし、次年度に向けてどのような教材を行うか検討した。

新学習指導要領に向けて、資料や教材をどのようなものを使用していくかの検討をする為、いくつかの出版社の家庭科の教材本を取り寄せ、意見交換を行った。新学習指導要領の要点が分かるもの、実践例などが紹介されているような資料を探し、実際に話し合うための材料とした。

今後は、調理実習や作品製作において、効果的な ICT 機器の活用方法を研究していきたい。

（８）東葛飾支会　技術・家庭科部会

（学校数７２）

１．研究テーマ

実践的・体験的な活動で生じた進度差に対応した指導・支援の在り方

２．研究テーマ等について

千葉県北西部に位置する東葛飾地区は、松戸、柏、野田、流山、我孫子、鎌ケ谷の６市で構成されており近年は、つくばエクスプレスの開通に伴う開発が加速し、沿線である柏市北部や、流山市は人口の増加が著しい。その影響を受けて今年度より柏市に新設校が開校し東葛飾地区内の中学校数も７２校となった。

今年度は、千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会を東葛飾支部の柏市が担当した。研究テーマについては、新学習指導要領への移行を見据え、実践的・体験的な活動で生じた進度差に対応した指導・支援の在り方を研究テーマの中心に置き、柏市内の先生方が協力して研究に取り組んだ。

３．研究概要

まず、授業研究では、「役割体験学習」と「知識構成型ジグソー法」を融合させた実践的・体験的な学習活動を取り入れた授業展開ということで、技術分野は「発電の仕組みについてのジグソー法を用いた学びあい」、家庭分野は「消費生活と環境」という内容で共にグループごとの言語活動や ICT 機器の活用を重視した授業展開を行った。特に私が参観した技術科の授業では、教科横断的な学習活動と言うことで『発電』というキーワードを軸に理科や社会的な切り口で授業を展開していたところに興味を引かれた。

次に研究報告では、平成 27 年から継続的にとり続けてきた東葛飾支部技術・家庭科教育の現状アンケートを基に技術分野、家庭分野それぞれの指導領域の時間数や教師の指導スキルの問題等を分析し発表をおこなった。特にエネルギー変換と情報の指導時間に大きな変化が見られた点は、大変興味深いところである。更に提案においては、技術

分野で「作業における進度差の解消と支援について」、家庭分野で「トートバック製作に於ける ICT 等の活用」という研究主題で発表が行われ、作業の進度差を解消するための工夫や教育機器を使いこなすための工夫が、盛り込まれたものであった。

４．成果・課題と今後の展望

平成 27 年に東葛飾地区の技術・家庭科の研究大会が、柏市で行われた。その時、東葛飾管内の多くの先生方が、研究協議に参加し当時、新学習指導要領の要諦であろうとされていた「カリキュラム・マネージメント」や「アクティブ・ラーニング」についてディスカッションを行い研修を深めたことを記憶している。あれから３年、その後も柏市内では若手の先生方を中心に頻繁に研修を積み重ねたのだと聞いている。今回の研究大会では、研究報告・提案そして授業展開と柏市内の若手の先生方が前面に立ち研究発表が行われた。日頃の地道な研修が、今回の研究発表の礎を築いたのだと思う。更に裏方として多くのベテラン教員、そして小学校の家庭科の先生方が会場準備等で支えていたことも付け加えておきたい。今大会は、『オール柏』の力が見事に結集した大会だったと言えるのではないだろうか。

近年、各種研究大会を運営することは、様々な面でとても大変である。しかし、若手、ベテラン、小学校、中学校などみんなの力を結集させる場と考えるならば、それは絶好のチャンスであり大変有意義なことではないだろうか。

来年度、松戸市を中心に東葛飾管内の研究大会が、予定されている。『オール松戸』の結集した力を期待したい。

（9）印旛支部

（学校数　小学校１１０　中学校４９　　会員数　小家庭４１　技術科３７　家庭科３８）

１．印旛支部研究主題

確かな知識と技術を身に付け，社会の変化に対応し， 生活や技術を工夫し，創造する力を育む学習指導のあり方

２．主題設定の理由

現代の子どもたちを取りまく生活環境は科学技術の進歩とともに大変便利なものになってきている。しかしながら，子どもたちがものをつくり，活用する生活体験は少なくなってきており，生活に係る知識及び技能などが徐々にではあるが劣ってきている。

新学習指導要領において，小学校では，生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを重視している。また中学校では，生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ，生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを重視している。

それらを踏まえ，授業を通して子どもたちに身近な家庭・社会生活に目を向けさせ，興味・関心を高めることにより，自ら学ぶ意欲が喚起され，生活の基本的な仕組み（技術）が発見できると考える。そして，「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせ，問題解決的な学習を充実させることにより，生活や技術に係る基礎的・基本的な知識と技能や技術の習得が図られ，そうすることで自分の適性にあった創意工夫が生まれるものと考えられる。そのことにより児童・生徒一人一人における家庭生活や社会生活が充実し，さらには生活の自立を図ることができるであろうと考え，本主題を設定した。

３．研究の概要

（１）行事

①定期総会　５月８日(火)
成田市立成田中学校で開催。昨年度の報告および今年度の研究主題，行事予定内容等を確認。

②県研究大会・総会・作品展　６月２９日(金)
印旛地区内１４作品を出展。家庭分野２作品が全日中佐賀大会に選出。

③中学校技術・家庭科実技研修会　７月３０日（月）・３１日(火)
佐倉市立佐倉中学校で実施。県伝達講習を行い，技術分野と家庭分野に分かれ印旛地区内の独自の研究をそれぞれ深化。

④小学校家庭科実技研修会　８月９日（木）
成田市立美郷台小学校で実施。県伝達講習および次年度の小学校関ブロ千葉大会への確認等。

⑤関東甲信越地区(長野大会)中学校技術・家庭科研究大会　１０月２６日（金）
印旛地区が第４分科会において「小中連携によるプログラミング学習の展開を通して」を提案。また印旛地区より１７名参加。(資料参加を含む。)

⑥第３４回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会千葉大会　１１月７日（水）
成田市立公津の杜小学校で開催。公開授業，研究発表，分科会，全体会を実施。

⑦第１５回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア　１１月１０日（土）
印旛地区から１校が木工（県会長賞），１校（６チーム）がロボコン，２校（６チーム）がお弁当（１チームキッコーマンおいしい記憶賞），１校１名がアイデアバッグに参加。

⑧第５８回印旛地区小学校家庭科，中学校技術・家庭科作品展

１１月３０日（金）～１２月３日（月）

四街道市立千代田公民館で実施。小学校家庭科作品２３９，中学校技術科作品１４５，中学校家庭科１５１，出品総数５３５。来賓，地域住民，児童・生徒と保護者など４９３名が来場。

［第５８回　印旛地区小学校，中学校技術・家庭科作品展の様子］

（２）研究について

①技術分野

例年活発な研究協議が行われる印旛地区教育研究集会。今年度は第一部会（佐倉市・酒々井町　計１２校）と第四・五部会（八街市・四街道市　計９校）の代表発表となり，それぞれ「エネルギー変換に関する技術」と「生物育成に関する技術」の２本が提案された。「エネルギー変換に関する技術」の内容では，エネルギー変換効率についての理解を，生徒が体験を通して主体的・対話的に深く学ばせるための研究がなされていた。若手ならではの新鮮な発想で提案がなされ，生徒が生き生きと活動できた様子が伝わるような提案であった。また「生物育成に関する技術」の内容では，年間を通して行うことができる作物の栽培実習題材について，深い研究のなされた実践発表となった。特に後期にあたる時期に効果的に栽培を行うための手法や，それに付随した留意点などは長年のキャリアが必要なもので，若手教員にとって貴重なデータとなる提案であった。いずれの提案内容も，支部内それぞれの教員が実践に苦慮している内容であり，互いの知識・経験とすり合わせながらより効果的な指導方法や題材を探るような実のある研究協議会となった。

②家庭分野

小学校による「よりよい生活をめざす意欲と確かな実践力の育成 ～家庭と学校を行き来して，課題を解決する指導過程の工夫～」の提案と中学校による「消費者センスを身に付け，よりよい消費行動を考え工夫することのできる生徒の育成」の２本が提案された。小学校の提案では「課題を解決する力」を育てる手段として①つかむ（学校で）②見つける（家庭生活で）③力をつける（学校で）④実践する（家庭生活で）⑤共有する（学校でＩＣＴ活用）⑥実践の日常化（家庭で）というように家庭と学校で学びを行き来する指導方法について発表された。中学校の提案では、社会生活の変化の中で、今まで以上に消費者教育が必要になることから、消費者トラブルや事故に遭いそうになった時に，危険を察知し回避する力“消費者センス”を学ぶための指導方法・自作教材の開発について発表された。

４．成果と課題

印旛地区は中学校数に対して専科の技術・家庭科担当の割合が減少傾向である。そのため実技研修や研究発表のいずれも両分野の授業力向上を意識して進めてきた。すべての学校において生徒が体験的学習を通して，また主体的・対話的で深い学びを通して生活や技術を工夫し，創造する力を育むために，たゆまぬ研鑽を積み，支部全体のスキルアップを図ることができた。

課題は新学習指導要領全面実施に向けた指導計画，評価計画の整備である。そのために支部，又は組織された各部会の研修会を機会に研究・実践をさらに進めていきたい。

（10）香取支部

（学校数　中学校　１０校　技術科　１２名　家庭科　３名　小学校　３２校）

1　香取支部研究主題

自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究

（１）中学校　学習指導要領の研究、教材研究、研究実践の積み上げ
（２）小学校　学習指導要領の研究、研究実践の積み上げ

2　主題設定の理由

技術･家庭科の目標は「生活に必要な基礎的･基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術のかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」である。

香取支部の生徒や地域の実態として、次の点が挙げられる。

①　農村地域でありながら、生活体験の不足、ものづくり体験が不足している。
②　祖父母の農業従事者は多い。父母世代は、地元及び近隣の鹿嶋・成田方面へ勤務している者が多い。

また、香取支部は平成２２年度県研究大会を開催し、そのときの研究主題「確かな知識と技術を身に付け、自ら課題を解決していく力を育む学習指導のあり方」を継続する形で、本主題「自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究」を設定した。

3　研究の概要

（１）研究の仮説

学習活動の中に意図的に問題解決的な学習を取り入れ、繰り返し行っていくことで、児童生徒の「問題発見能力」「問題解決能力」が高まるであろう。

（２）研究方法

①　各学校で日常の授業の充実に努める。
②　公開授業に積極的に参加し、その内容を支部内に伝達する。
③　校内研究会などの機会に、授業を公開するとともに研究協議を充実させる。
④　研究レポート等の提案発表を行い、課題解決のための協議を行う。
⑤　実技研修会において、自らの技能向上を図る。
⑥　作品展の際、作品を通して授業実践の情報交換を行う。

（３）研究実践

①　各学校での授業実践は、会員が課題を認識して取り組むことができた。
②　関ブロ小学校家庭科研究大会の協力として、「課題意識をもち主体的に取り組む児童の育成　～実践的・体験的な活動を通して～」をテーマに、香取地区の授業実践を紹介する掲示物を５名の役員で作成した。今後役員会などで紹介、伝達していくことを確認した。
③　校内研究での相互の授業公開を実施し、参観すると共に研究協議にも参加した。しかし、それぞれが授業を持っており、他校の授業を見て研究協議に参加するだけの時間的な余裕がなく、活発にはできなかった。

④　実技研修会を夏季休業中に実施した。

ア　技術分野　「回路設計ツールを用いた活動」

半日開催で、９名が参加した。「エネルギー変換に関する技術」の内容で、回路設計ツールを用いての研修を行った。導通性マーカーで描いた線がそのまま導線となり、部品もはんだ付けが不要で、マグネットを利用した専用の部品が用意されているため、失敗を恐れずに何度も試すことができ、思考や関心を引き出す教材であった。参加された先生方も興味をもてる教材であった。

イ　家庭分野　「布を使った小物作り」

実技は半日で行い、「ジャバラポケットのカードケース」を製作した。簡単にできるものだったが、実用的であると好評であった。

⑤　教育研究協議会では、技術分野より「正確に組み立てるための指導の工夫」を研究テーマとした提案があった。小学校の先生を含む約２０名の参加があり、活発な討議が行われた。技術担当者においても、各学校の現状を知ることができ、情報交換の場にもなり、有意義な協議となった。

⑥　作品展では、優秀作品を選考するとともに、工夫した作品・新しい題材等を検討する機会となった。また、基礎的・基本的な技能の習得の大切さを改めて確認することができた。

４　成果と課題

（１）成果

①　香取支部の様々な研修会及び研究部員一人一人の授業実践を通して、研究主題に迫る課題･ヒント等を見出すことができた。

②　研究部員が少ないが、お互いに気心を知った仲間であり、研修の成果を共有することが簡単にできた。

③　研修会の折に、日ごろの疑問点や聞きたいことを気軽に聞くことができた。

（２）課題

①　実技研修会や実践記録を用いての研修機会はあるが、授業研究の機会が少ないので、研究主題についての評価が、明確にできていない。

②　中学校技術・家庭科担当者が少なく、複数の学校をかけ持ちして授業を行っている講師もいる。講師は出張できないため、実技研修会に参加できず、その機会に行われる情報交換もできずにいる。

③　香取支部では、児童生徒の減少に伴い、小・中学校の統合が進められている。数年後には中学校８校、小学校２０校ほどになる。このため、香取支部として、研究・研修内容、作品展等の行事での運営面の改善を迫られている。

④　県ものづくり教育フェアへ積極的に参加するようにしたい。

※　香取支部としての本年度の行事

４月１３日　研究部総会　行事、決算・予算、役員改選
５月２５日　役員研修会　平成３０年度の行事運営の詳細確認
８月　７日　実技研修会　技術と家庭分野に分かれての研修
８月２２日　研究協議会　技術分野の提案及び協議
１月３０日　役員研修会（作品展搬入・作品審査）
１月３１日～２月　６日　小学校家庭科、中学校技術・家庭科作品展
２月　６日　役員研修会（作品展反省・来年度の見通し）

（11）東総支部

（学校数１５校　会員数　技術科１１名　　家庭科９名）

１．東総支部研究主題

【技術分野】
地域の実態を踏まえた指導法のあり方
～東総地区技術・家庭科指導マニュアルの作成を目指して～
【家庭分野】
環境に配慮した生活を主体的に営もうとする児童・生徒の育成
～エコクッキングの視点を取り入れた学習活動を通して～

２．主題設定の理由

【技術分野】

東総地区では、多くの免許外の教員が授業を担当している。また、学校に１人だけであることが多く、授業の内容や指導方法について相談できないことが多い。

これらの状況から、誰でも参考にして授業を進めることができるデータベースが必要である、また、人事異動による新任地での負担も軽減できると考えられる。

【家庭分野】

小中家庭科における５年間の学習を通して、新たに環境に配慮した生活ができる児童・生徒を育てていく指導法の確立が必要である。特に、調理実習の流れが小中学校で統一されていると、技能の習得や理解を深める上で有効ではないかと考えられる。

３．研究の概要

（１）研究の仮説

【技術分野】

東総地区で共通の指導計画や指導方法を示した指導マニュアル「東総スタイル（仮称)」を作成することで、技術科教員の負担が減り、授業内容がより充実したものになるであろう。

【家庭分野】

自らの食行動や消費行動を振り返り、身近な生活が環境に与える影響について関心を高められれば、環境に配慮した生活を送る上で必要な知識や技能を身に付けることができるであろう。また、小中連携を図り、身に付けるべき基本的な知識・技能を整理し､エコクッキングの視点を取り入れた実践的･体験的な学習を積み重ねていけば、環境に配慮した行動ができるようになるであろう。

（２）研究内容

【技術分野】

①免許外指導者へのアンケート内容の検討

本地域において、免許外で技術科を指導する教員の悩みや困っていることを把握するためのアンケートの調査項目を検討した。

②「材料と加工に関する技術」の題材となる製作品の検討

前年度の指導マニュアル試作の反省から、本年度は製作品を決めて指導マニュアルの検討を行った。

③題材となる製作品の試作

５種類の木材を用いて、共通の設計図をもとにして製作品の試作を行い、指導上の留意点等について検討した。

【家庭分野】

①小中連携のための資料内容の検討と作成

小中学校それぞれの食物学習の中で、環境に関わる項目を選定し、アンケート調査を行った。また、調査結果についてはチェック表の作成に反映させた。

②提示資料・映像資料の作成

チェック表の内容で指導に際して特に注意が必要な点や、言葉による説明だけではイメージしにくい部分については掲示できる資料を作成した。また、これらの資料をデータ化したＣＤを管内全ての小中学校に配布した。

③活用方法と活用後のアンケートの作成

エコクッキングのチェック表や提示資料セットを活用のポイントと合わせて、管内全ての小中学校に配布し、要点を押さえたスムーズな指導を実践できるようにした。

４．成果と課題

（１）成果

【技術分野】

東総スタイルで扱う製作品についての協議や試作を通して、指導者と生徒の両者の視点で考えることは非常に難しいと感じたが、最低限指導していかなければいけないこと、技術科という教科が育む力とは何なのかを再確認できる良い機会となった。今回の製作品についての研究を通して、「東総スタイル」を作成する大きな足がかりとすることができた。

【家庭分野】

家庭科の各題材に環境への配慮を取り入れた学習は少しずつ定着している。今回もアンケート調査を複数回行ったことで、担当者の指導法に関する指導者の困り感や児童・生徒の環境に対する意識を知ることができた。また、小中学校担当者が協力して研究を進めたことで、連携をより深めることができた。

（２）課題

【技術分野】

今年度作成したアンケートを東総支部の技術科指導教諭に配布・調査をし、現場の実態を集約することが必要である。そのアンケート結果と今年度の研究を「東総スタイル」作成に活かし、より指導者の助けになるような指導マニュアルを作成していきたい。

【家庭分野】

今回初めて学習資料をデータベース化し、各学校で同じ視点の授業が行えることをねらいとしているが、実際の児童・生徒の反応や活用後の意見や感想を分析し、さらに改善していく必要がある。また、地域の実態を考えた場合、今後は食物学習以外の題材でも同様の取り組みが考えられるが、研究の幅を広げることは、現時点では時間的に難しい状況である。

(12) 山武支部

（学校数５９　会員数　技術科１５名　家庭科１２名）

１．山武支部教育研究主題

人との関わりをとおした学びから，豊かな生活を創造する態度を 育成する技術・家庭科教育の在り方

２．主題設定の理由

平成３２年度（中学校は３３年度）から改訂される次期学習指導要領を見据え，家庭科，技術・家庭科においては，実践的・体験的な活動を通して，生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り，それらに係る技能を身に付けるとともに，生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し，それを解決する力や，よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度の育成を目指す必要がある。

「技術分野」では持続可能な社会の構築やものづくりを支える能力の育成，また技術を適切に評価し活用できる能力の重視など，社会の変化に対応する視点からの改善が必要である。一方，「家庭分野」では，少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないことへの対応や食育の推進など，社会の変化に対応した学習を行わなければならない。

しかし，現状を見てみると，「授業で学習したことを生活や社会の中で，確実に活かせているか定かではない」ようである。授業で学んだことを活かすため，思考力・判断力・表現力を育むような授業のあり方について研究を進めていく必要がある。言語活動を重視し，生徒同士の主体的な学び，対話的な学びが実施されるよう工夫する必要がある。また，確かな「教え」をとおして，基礎的・基本的な知識と適切な技能の定着を図るとともに，課題を見いだし解決を図る問題解決的な学習のあり方について研究を進めていくことが重要であると考え，本研究テーマを設定した。

３．研究の概要

（１）研究内容

・学習指導要領に即した指導内容と言語能力の育成を取り入れた授業研究を進める。
・学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ，題材の開発や授業の工夫改善，評価方法と評価の判断基準の見直しをする。

（２）運営方針

・研究活動及びその他の部会事業をとおして，会員の力量の向上を図る。
・年間の諸活動における会員の要望を集約し，次年度の運営方針案に反映させる。

（３）年間計画

・　５月　１０日（木）　　山武教育研究総会（横芝中学校）
・　６月　　７日（木）　　第１回同一研修会（各会場）
・　８月　　２日（木）　　実技伝達講習会（東金中学校）
・　８月　２２日（水）　　教育研究集会（各会場）
・１１月　１５日（木）　　第２回同一研修会（各会場）
・　１月　１１日（金）　　小中学校技術・家庭科主任会（横芝中学校）
・　２月　１～３日（金～日）　山武郡市小中学校技術・家庭科作品展（東金サンピア）

（４）実践の概要

①小学校部会

ア　第１回同一研修会　大多喜ガス株式会社の方を講師に迎え，調理実習を行った。ナンプラーを使ったエスニックスープと，卵を使わないマンゴー蒸しパンという献立で，普段あまり馴染みの無い食材だが，手軽に使用することができ，今後の実践に生かしたいと感じた。

イ　実技研修会　消費者センターの方を講師に迎え，消費者教育の指導法を学んだ。契約の意味を学ぶには，県製作の「明日の消費者」「きみならどうする」等が効果的とのことであった。衣生活の研修として，生活に役立つものの製作についても学んだ。製作前に新聞などの紙で作る「試しづくり」という観点から，衣服製作の型紙につなげていく内容であった。

ウ　教研集会　岩澤愛花教諭（増穂中）による，衣生活文化への理解を深める学習指導の工夫についての提案が行われた。コースターやミニチュア着物の製作活動を通して，布や衣服の構造，和服のつくりや良さについての理解を深めることができたという内容であった。身近な物や入手が容易な材料を使った実践であり，今後に生かしていきたいと感じた。

エ　第２回同一研修会　成田裕子教諭（九十九里中）による，「住生活」の導入授業が行われた。１２地域の住居について，３人一組での調べ学習後，全体で共有するという内容であった。他教科の教材など身近にあるものを使い，横断的な視点で授業をとらえ，調べ学習から発表までの流れがスムーズかつテンポ良く進んでいく，素晴らしい授業であった。

②中学校技術・家庭科部会（技術分野）

ア　第１回同一研修会　川口邦男教諭（鳴浜小）による，プログラミング学習の研集会を行った。スクラッチやロボットを用いて，小学校におけるプログラミング学習の必修化を見据えた内容を学んだ。実際にコンピュータやロボットを操作しながらプログラミングを行っていく中で，小中学校で行うべき内容の参考になった。

イ　実技伝達講習会　五木田和樹教諭（成東中）・大土正行教諭（東金中）を講師に，身近な材料で生活を豊かにするものづくりを学んだ。角材と布を使った座椅子や，アルミ缶を利用したアルコールランプ，アルミ材を利用した五徳の製作も合わせて行った。

ウ　教研集会　宇佐見晶良教諭（成東東中）のレポートを元に，コンパニオンプランツの考え方を用いた興味関心を高めることができる授業の方法が協議された。校内環境や生徒の状況に応じて，よりいっそう意欲的な栽培授業を行うにはどうすれば良いかなど，様々な視点から議論を深めた。

エ　第２回同一研修会　吉田樹央教諭（東金西中）による，作業先行学習の考え方を取り入れた，のこぎり引き技能習得についての研究授業を行った。安全面や最低限の知識を習得している状態で，作業を先行させた上での技能習得を図っていた。生徒が意欲的に活動しており，参考になる実践研究であった。

③中学校技術・家庭科部会（家庭分野）

ア　第１回同一研修会　※小学校部会と合同実施のため，記載省略

イ　実技研修会　内山潤子教諭（東金中）内山浩子教諭（白里中）を講師に，食育の視点における日常食の調理を行った。千葉県の郷土料理である「いわしのさんが焼き」「芋けんちん」などを調理した。また，資源環境の視点からの衣製作として，ペットボトルカバー作りを行った。持続可能な社会の構築に向け，家庭科教育でできることについて学んだ。

ウ　教研集会　※小学校部会と合同実施のため，記載省略

エ　第２回同一研修会　※小学校部会と合同実施のため，記載省略

４．成果と課題

（１）研究の成果

授業者や研修を担当された講師の方々のご尽力により，参加者にとって，新たな知識や技能，実践してみたい工夫などが多く伝えられ，どの研修会も有意義なものであった。

（２）今後の課題

本教科の特性を生かし，思考力・判断力・表現力等の能力を高める授業や研修の工夫をさらに進めていかなければならない。また，本支部においては，経験の少ない教諭・講師が増えていることから，指導するための知識や手法，作業における技能の共有はもとより，評価方法などを協議する場を増やす必要があると考える。

（13）長生支部

（学校数　中 12 校　小 9 校　会員数 30 名　中技術 9 名　中家庭 10 名　小家庭 11 名）

1　長生支部研究主題

生活に役立つ知識と技術を身に付け、社会の変化に対応する力を育む学習指導のあり方

2　主題設定の理由

本支部では、技術・家庭科の目標である「進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」に着目し、生徒に今まで学んだ知識と技術を応用した解決方法を探究したり、組み合わせて活用したりする力やそれらを基に自分なりの新しい方法を創造する力を育て、さらに社会の変化に対応しながら実際の生活の中で生かすことができる能力と態度を育てたいと考え本主題を設定した。

3　研究の概要

（1）研究計画（事業計画）

４月２４日（火）	技術･家庭科研修会	活動計画の立案
５月　２日（水）	長生教育研究集会	事業報告、活動計画
６月１９日（火）	教材開発研修会	教育研究集会の提案内容の概要検討
７月２７日（金）	小・家庭科伝達研修会	中央伝達研修会の伝達研修
８月　２日（木）	教材開発研修会	教育研究集会の提案内容の詳細検討
８月　３日（金）	中学校技･家実技研修会	実技研修会
９月１９日（水）	長生教育研究集会	家庭分野からのレポート発表
１１月３０日（金）	技術･家庭科研修会	作品展の計画
１月１８日（金） ～２月１５日（金）	小学校家庭科、中学校技術･家庭科作品展	作品展
２月２６日（火）	技術･家庭科研修会	一年間の反省と次年度の計画

（2）長生教育研究集会　（９月１９日　長生村立長生中学校）

今年は中学校家庭科教育のレポート発表が行われ、研究主題に沿った内容で発表された。概要は次のとおりである。

【提案者　茂原市立早野中学校　川崎　美紀】

①　研究テーマ

自立した食生活を送るために、意欲と自信をもたせる学習指導の工夫
～身近な食材と加工食品の活用～

②　研究の目標

（ア）時短で手軽な調理を成功させることで、自分の食事を自分で作るという自信と意欲をもたせる。

（イ）簡単な調理でも栄養面に配慮した健康的な食事を目指すことができる生徒を育成する。

③　研究仮説

（ア）ﾚﾄﾙﾄ食品、缶詰等の加工食品を活用することで、調理が簡単になり、成功体験をすることで自炊する意欲がわくであろう。

（イ）ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽｱｯﾌﾟのためには食事が密接に関わることに気づくことで、自炊の際にも栄養面を考慮するようになるであろう。

④　成果と課題

〈成果〉

○研究の目標（１）に対する実践の成果

・　実践授業以前のｱﾝｹｰﾄでも自炊の意欲はあったが、実践授業後のｱﾝｹｰﾄでは更に増えて、９割の生徒が自炊しようと思うと答えた。ﾚﾄﾙﾄ食品を活用することで手間のかかる味付けを気にすることなく安心して調理することができ、調理する事へのﾊｰﾄﾞﾙが下がり、自信につながった。

・実践の調理実習後には「試食してくれた友達に『おいしい』と言ってもらえてとてもうれしかった」という感想や、家庭での実践では、家の人から「○○が自分の力でこんなに美味しく作るとは思わなかった。また作ってください。」などのｺﾒﾝﾄをもらえたことは生徒にとって大きな成功体験となった。

○研究の目標（２）に対する実践の成果

・事後のｱﾝｹｰﾄからは、加工食品の長所である手軽さを上手に活用しつつも、時短・簡単だけでなく、「健康的な食事」にしようという目標をもって、栄養のﾊﾞﾗﾝｽを考えて自炊しようとする生徒が増えたことがわかる。また、保護者の事後ｱﾝｹｰﾄでは「子どもが家で料理をすることをどう感じるか」で、良いと思うと答えた保護者が増えていたことも成果の一つと考えられる。

〈課題〉

・ﾋﾞﾀﾐﾝ（野菜）を取り入れようとするが、熱を加えるとどのくらいの嵩(かさ)になるのか、ｼﾞｬｶﾞｲﾓをどのくらいの大きさに切ってﾚﾝｼﾞで加熱したらよいかなど、経験することでしか得られない知識もあるので、できるだけ調理の基礎となる知識を多く身につけさせるような内容を授業で行い、時間が許す限り実習を行い、実際に体験させたい。

・ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽｱｯﾌﾟの視点からの栄養面へのｱﾌﾟﾛｰﾁをしたが、「実習を終えて」の感想には、ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽｱｯﾌﾟについての感想が見られなかった、子どもたちの重きが「簡単・時短」になってしまった。「なりたい自分に近づく」ということで、ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽｱｯﾌﾟの意識をもたせたい。

・10 %の生徒はまだ自炊の意欲がないが、生徒の意見としては「買えばよい」という意見がほとんどであった。この結果を受けてもっと栄養面の重要性を実感させる手立てを工夫したい。

・家庭での実践場面を増やしたいが、やはり多忙の中、生徒自身が実践しようとするきっかけが必要であると考える。そこで、家庭科通信を工夫して活用し、家庭での実践場面を増やしていく方法を考えたい。

・生活の基盤となる食生活をどう捉えて、生活していくかは、健康に生きるため、理想の自分になるために重要であるということを、早い段階で子どもたちに学習させたい。今後は、小学校とも連携を図り、家庭科の学習開始時に「食生活の重要性」を訴えていく必要があると感じる。

（14）夷隅支部　（学校数　６校　会員数　技術科　６人　家庭科　５人）

１．夷隅支部研究主題

「社会環境の変化に対応し，生活を工夫し創造する生徒を育む学習指導の在り方」

２．主題設定と理由

時代の変化に伴い，物質の豊かさのみを追求する生活は見直され，持続可能な社会の構築を目指すためにも，社会環境の変化に対応しながら生活を工夫し創造することのできる生徒を育成することが期待されている。

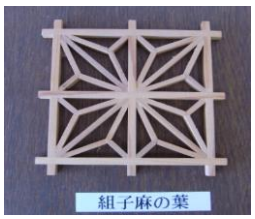
技術分野では，「内容Ａ　材料と加工に関する技術」において，材料としての木材とその加工技術に改めて注目した。その理由として，製作経験の少ない生徒にとって，木材は手工具で加工がしやすい材料であり，基礎的・基本的なものづくりの技術を身につけるためには適していることが挙げられる。また，生徒に環境問題を考えさせる視点から，木材は環境に優しい循環型資源であることが挙げられる。生徒に，本地域の自然豊かな環境を活かした森林の働きを学ばせた上で，地域の人材を活用して木造建築や伝統工芸について生徒の理解を深めさせ，材料としての木材とその加工技術について適切に評価･活用する力を生徒に育ませたいと考えた。

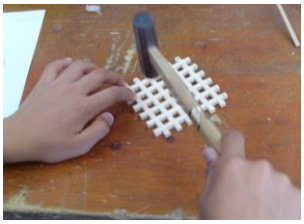
家庭分野では，「内容Ｃ　衣生活・住生活と自立」において提案をした。生徒一人ひとりが衣生活・住生活について，主体的に考え生活に活かす取り組みについて、さらに継続して研究をすすめた。

夷隅支部では，技術分野と家庭分野の両方に共通する研究主題を「社会環境の変化に対応し，生活を工夫し創造する生徒を育む学習指導の在り方」と設定し，研究を推進することとした。

３．研究の概要

技術分野［組子の見本］





※社会人活動、地域の伝統職人との作業風景。

家庭科分野　［生活の自立を重視した全体計画］

中学校に入学すると，制服の着用などにより，衣生活に変化が見られるようになる。また，心身の成長に伴い，個人の生活空間で過ごす時間も増えてくる。そうした生活の変化を捉え，１学年に「内容Ｃ　衣生活・住生活の自立」を位置づけた。また，早い段階で学習したことを生活に活かす体験をさせるために「衣生活又は住生活についての生活の課題と実践」を１学年で行うこととした。さら、基礎的・基本的な知識や技術の習得を図るために様々な場面で体験を通した学習を取り入れた。

「C衣生活・住生活の自立」における主な体験の場面

学習内容		体験内容
健康で安全な住まい	室内環境	空気の流れ方の実験
	家庭内の安全	幼児体験・高齢者体験
住まいと地域	災害への備え	家具の配置による安全の工夫
		非常持ち出し品についての話し合い
	住まいと音	音の伝わり方の実験
日常着の活用	自分らしく目的に合わせた着方	色による印象の違いについての話し合い
		ＴＰＯに応じた自分らしいコーディネート
	衣服の活用と選び方	ダイヤモンドランキングを用いた既製服を選ぶ時の視点についての話し合い
日常着の手入れ	衣服の手入れと表示	自分の衣服の表示の調査
	衣服の洗濯	洗剤のはたらきについての実験
布を用いた物の製作		補修の技術を活かしたファイルカバーの製作

課題設定後，解決のための計画を立て，家庭で実践させた。実践の過程や結果については「課題解決レポート」に記録させた。また，保護者からのコメント欄を設け，家庭とのつながりが持てるようにした。なお，「布を用いた物の製作」を学習している間を実践期間とすることで，日常生活の中で取り組むことができた。さらに，実践の結果等について発表の場を設定することで，よりよい方法について考えたり，次の課題を設定したりすることにつながった。

４．成果と課題

【技術分野】

（１）成果

・技術を習得する過程を意識した授業により，基礎的・基本的な技術の習得が図られ，身に付けた技術を生活の場面で活用することができた。

（２）課題

・３年間を見通した指導計画を繰り返し見直し，改善して行く必要がある。
・評価項目を工夫し，効率的で効果的な評価方法について研究を深めたい。
・技術の評価・活用についての学習が深まるワークシートの開発を更に進めたい。

【家庭科分野】

（１）成果

・体験を通した学習を多く取り入れることで実感を伴った学びができ，自分の生活の課題に付くことができた。
・「生活の課題と実践」における課題設定には，「衣生活・住生活自立度チェック表」や「いすみカード」の記入が効果的であった。
・自分の手で課題を解決できたという体験を通して生活への関心が高められた。

（２）課題

・指導計画を見直し，実生活によりつながる体験内容について研究を深めたい。

（15）安房支部

（学校数　１４校　　会員数２６名　技術科　１４名　家庭科１２名）

１．　安房支部研究主題

－　学びを生かし，生活を創造する力を育てる指導のあり方　－

２．主題設定の理由

技術・家庭分野ともに，溢れるほどのものがある時代に，如何にして生活に目を向けさせ，学びを生かしてより良い生活を築くために創造する力を育てるかをテーマに研究を進めた。

この主題を達成するためには，児童・生徒が自ら工夫創造しながら意欲的に取り組める学習活動となるように授業改善することが必要である。安房支部では，本教科の特性を生かし，実践的・体験的活動を通して，自ら課題を解決していく力を育てることを目指し，本主題を設定した。

３．研究の概要

（１）研究仮説

①基礎・基本の定着と学習目標を明確化することにより，生活を創造する力を育てることができるであろう。

②日頃の生活に根ざした指導計画の改善・観点別評価規準の見直しと題材開発を行うことで，児童・生徒の実態に即した学習支援の充実を図ることにより，生活を創造する力を育むことができるであろう。

③研修の中核に実技研修や体験的研修を多く取り入れることで，指導者の資質・指導力の向上に努めれば，より充実した学習支援ができるであろう。

（２）活動の概要

今年度，技術分野については，「設計の具体化を図る試作品を取り入れた技術による問題解決能力を高める指導法」，家庭分野については，「自分の消費生活に関心を持ち，自立に向け思考・判断ができる生徒の育成を目指した授業実践」という視点から研修・実践を進めた。

仮説①・②では，技術分野・家庭分野共に「日常の生活」に結びつけた研修・実践を進めた。技術分野では，「材料と加工に関する技術」において，試作品の具現化を図るために，模型作りを取り入れた。強度や板厚や接合など，製作時に起こりうる課題を試行錯誤する場を設定することで，問題解決能力の育成を図った。

家庭分野では，消費者生活に関心を持たせ，生活の自立に向け，知識の習得と思考・判断ができるように体験的・実践的な活動を取り入れた授業を展開した（「商品の選択と購入」「販売方法と支払方法」「契約と消費生活のトラブル」）。

仮説③については，実践的・体験的活動を通して研修が深められるよう，実技研修を取り入れた。夏期休業中の実技研修では，新学習指導要領の内容に即した技術分野・家庭科分野の各題材が用意されていたが，台風のため研修時間が大幅に削減されてしまった。今年度は，技家共通の研修として「賢い消費者になるための金融セミナー」を実施した。教研集会では，技術分野・家庭分野で，館山市立第二中学

校の実践報告がされ，部会の研究のまとめとして多くの意見が交わされた。

また，毎年開催される「安房地方小学校家庭科，中学校技術・家庭科作品展」も，研修成果が反映された作品が多く展示されていた。

（３）主な活動

期日	会場	活動内容
４/２５（水）	三芳中学校	一斉研修日① 「総会と役員選出，行事計画の検討」
６/２０（水）	総合教育センター	小学校家庭科研修（中央伝達）
６/２８（木）	総合教育センター	中学校技術・家庭科研修（中央伝達）
７/２７（金）	鴨川中学校	小学校家庭科実技研修会 「伝達講習」
８/１（水）	鴨川中学校	一斉研修日② 講話「賢い消費者になるための金融セミナー」 「教研集会へ向けてのレポート作成」
８/８（水） ９（木）	鴨川中学校	実技研修会「伝達講習」 ※８／９は，台風のため実施中止
８/２２（水）	館山市内	安房地方教育研究集会 源間　洋文　（館山二中） 「技術による問題解決能力を高める指導法の一考察」 髙橋　茉子　（館山二中） 「自分の消費生活に関心を持ち，自立に向け思考・判断ができる生徒の育成を目指して」
１１/６（火）	三芳中学校	一斉研修日③ 「作品展打ち合わせ，県教研報告」
１１/１０（土）	総合教育センター	ものづくり教育フェア
１/１８（金）	安房教育会館	研修会　作品展審査，会場準備
１/１９（土） ２０（日）	安房教育会館	小学校家庭科，中学校技術・家庭科作品展
２/５（火）	三芳中学校	一斉研修日④ 「本年度の反省と来年度の方向性」

４．成果と課題

技術分野では，生活体験の乏しい生徒の実態を考慮した指導法の工夫として，設計段階での指導法の改善は，自ら課題を設定し解決しようとする態度を育むことができ，よりよい生活を目指す態度の育成に繋がるものとなった。家庭分野では，中学校での正規教員が５名と少ない中であるが，会員在籍校すべてが同テーマで授業実践と検討・改善を行った。日常生活に根ざした指導は，生徒の実態に即した学習支援の充実を図ることに繋げられた。

次年度は，学習指導要領移行期間として，指導内容やカリキュラムについて共通理解を図る場を設け，年間指導計画の作成を進める必要がある。また，技術分野では共通テーマでの実践を通し，指導力の向上を目指したいと考える。

（16）君津支部

（学校数 89 校　会員数：中技術科 18 名 中家庭科 14 名 小家庭科 7 名）

１．君津支部研究主題

小学校家庭科　「生きる力を育む家庭科教育のあり方」
～生活の自立と共生の基礎づくりをめざして～

中学校技術・家庭科
「確かな知識と技術を身に付け、社会の変化に対応し
生活に活かす力を育む学習指導のあり方」

２．主題設定の理由

（１）小学校家庭科

「単なるものづくり」や「調べ学習」ではなく、生活を見つめ、解決方法を考え、実践する。このような授業展開を積み重ねることで、児童の生活重視の価値観を育てたいという願いを込めて本主題を設定した。

（２）中学校技術・家庭科

生徒が問題解決能力などの「生きる力」を身につける必要があると考えた。そこで，実践を通して技術に関する関心を高め，思考力や判断力，表現力などを身につけ，生徒自身が自ら課題や問題を見つけ生活を工夫し改善するなどの能力を育成することで主題に迫ることとした。

３．研修の概要

（１）小学校家庭科

６月は、「小学校における直線縫い及び袋の製作について」の実技研修を中学校家庭科と合同で実施。小学校家庭科の新学習指導要領では、「日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱うこと」とあり、ナップザック作りを行った。小学生がつまづきやすいしつけや三つ折り、ミシンの直線縫いについて丁寧にご指導いただいた。現場において、被服分野の指導を苦手としている先生方への便利なグッズやキットについても教えていただいた。また、新学習指導要領について、改定のポイント等を新旧対照表で説明していただいた。具体的に「生活の営みに係る見方・考え方」については、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造するために、よりよい生活を工夫すること」としている。

８月は、「日常の食事と調理の基礎に関する指導～エコクッキング～」快適な衣服と住まいに関する指導～環境を考えたくらし～」について講習会を行った。普段は捨ててしまうキャベツの芯のまわりも食材としての調理実習。生肉は使用できないので、ウインナーを入れ、子どもの好きそうな味に仕上げた。小物作りではフェルトとファスナーを用いてペンケースを製作した。「生活を豊かにする小物作り」以前の研修で学んだカラーコーディネートを活かして、配色を考えながらアレンジメントの基礎を学ぶことができた。

１１月、「藍染めをしよう」「食べて元気に」という題材で研究授業を行った。支援学級において「藍染め」に取り組んだ。教材開発を丁寧に行い、地元である君津の藍染めを広げる良いきっかけとなった。二日後に学校のバザーを控えており、藍染めで染めた靴下屋ハンカチを販売するという計画であった（実際に販売も行った）。５年生の学級において「食べて元気に」に取り組んだ。指導中心になりがちな「五大栄養素」について「牛乳が苦手な人はどうしたらよいのだろう」と逆のアプローチをし、牛乳以外の食品にも無機質（カルシウム）は含まれることを理解させることができた。

（２）中学校家庭科

小学校家庭科と合同で実施。

（３）中学校技術科

６月は、『授業の KARU 技』を活用し、授業改善についてのグループ討議。普段の授業を振り返るとともに、「板書のしかた」「ワークシートの効果的な使い方」「学習評価」など、項目に分けて、現状から問題点や改良方法などについて発表。短い時間の中で、それぞれのグループで活発な意見交換も見られ、有意義な時間となった。

「生物育成」に関する授業について、各校から持ち寄った資料をもとに話し合った。それぞれの学校の生徒の現状や環境の違いなどによって、それぞれやり方が異なることなど、多面的な視点から「生物育成」に関する授業について理解を深めることができた。

８月は、「アルミ缶コンロ・ロッキングチェアーの製作」を行った。治具を作るところから金属（アルミ缶）の加工をし、機械工具を用いてコンロを製作した。また、木目の方向や部材の寸法を意識したチェアを製作する中で、基本的な加工技術の確認ができた。

また、「木まくらの製作」を行った。１枚の板から卓上ボール盤や糸のこぎりなどの機械工具や、のみを利用して製作を進めた。この研修では技能面で多くのことを学ぶことができた。

森林保全に関する研修を行った。その活動の一環であるチェーンソーの研修と、植林、里山の保護活動の現場に行き、その経緯や具体的な活動などについてそれぞれ話を聞いた。国からの補助金のことや、活動の問題点や課題、森を守ることが海を守ることや環境保全につながることについて理解を深めた。

「材料と加工に関する技術」という題材で研究授業を行った。「材料と加工に関する技術」の中で、接合についての授業を展開した。特別な配慮を要する生徒の扱い方や、実物投影機とプロジェクターを活用した指導方法、接合に関する指導について学んだ。

４．成果と課題

（１）研修の成果

①小学校家庭科：中学校家庭科の先生方と一緒に行う研修が多く、小中の見通しを持った授業計画・題材について考える良い機会となった。先生方との交流の中で新しい発見をする経験ができ、充実した研修となった。

②中学校家庭分野：技能を高めるだけでなく、生徒が苦手とする部分に対してどのように指導すれば良いか、新しい学習指導要領の研修と合わせて知識を深める場面が多く、良い機会となった。

③中学校技術分野：今年度は生物育成に関して取り組む内容が多く、今後の指導につながる研修になったように感じる。技術の活用と評価についても、今回のように NPO 法人を活用し、地域の人材とのつながりを持つ中で、それに関する題材を先生方で共有できたことは大きな収穫だと感じた。

（２）今後の課題

①小学校家庭科：中学校家庭科との連携した研究を進める必要がある。小・中を通した指導計画などについても研修を進めていきたい。

②中学校家庭分野：製作するときに、大事なことを先に伝え、ポイントを生徒に考えさせるだけで作品の完成度は高くなると考えると、知識と技能が伴う授業を展開する必要性を改めて感じた。小学校の授業研究に参加したことで、小・中・高で同じような学習内容を学んでいることが分かった。中学校では学習をつなぐ役割を担っていると感じた。各部会員で実践を持ち寄り、より良い授業に向けてこれからも自己研鑽していきたい。

③中学校技術分野：支部としての教員間のまとまりを大切にしつつ、年々変化していく社会に目を向けていく必要があると感じた。学んだことを生かし、支部内の多くの学校で実践を進めていくことが課題である。実地研修は先生方にとって貴重な経験だと言えるので、今後も定期的に実施していきたいと考える。

平成３０年度　千教研　技術･家庭科教育部会　役員名簿

No.	役　職	氏　名	勤　務　校	校長名	郵便番号	学　校　所　在　地	電話番号	備　考
1	会　長	相京　貢	富里市立富里中	相京　貢	286-0221	富里市七栄652-226	0476-93-0012	印旛
2	副会長	浅岡正人	鎌ケ谷市立西部小	浅岡　正人	273-0121	鎌ケ谷市初富110	047-443-6621	東葛
3	副会長	小出泰幸	千葉市立若松台小	小出　泰幸	264-0027	千葉市若葉区若松台2-25-1	043-232-7335	千葉
4	副会長	井川富美子	船橋市立丸山小	井川富美子	273-0048	船橋市丸山4-43-1	047-439-2123	船橋
5	副会長	山田克彦	千葉市立こてはし台中	山田　克彦	262-0005	千葉市花見川区こてはし台5-15-1	043-259-1336	千葉
6	副会長	朝倉真由美	旭市立古城小	朝倉真由美	289-0511	旭市鏑木2699	0479-68-2421	東総
7	副会長	迎　寿美	千葉市立葛城中	大井　力	260-0853	千葉市中央区葛城2-9-1	043-227-5566	千葉
8	会計監査	米石達也	八千代市立睦中	米石　達也	276-0004	八千代市島田台756	047-450-2006	八千代
9	会計監査	松田　智	市川市立福栄中	鈴木　康治	272-0137	市川市福栄3-4-1	047-396-0701	市川
10	研究部長	野村英二	佐倉市立志津中	三村　宏治	285-0855	佐倉市井野1376	043-487-6611	印旛
11	研究副部長	服部仁典	松戸市立六実中	阿曽　祐康	270-2203	松戸市六高台5-166-1	047-388-1190	東葛
12	研究副部長	三宅健次	千葉大学教育学部附属中	藤川　大祐	263-8522	千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-2493	千葉
13	研究副部長	豊川ますみ	千葉市立大宮中	千葉　利郎	264-0016	千葉市若葉区大宮町2077	043-263-7964	千葉
14	研究部員	内藤利枝子	千葉市立末広中	藤代　茂雄	260-0843	千葉市中央区末広2-10-1	043-265-1818	千葉
15	研究部員	廣田恭子	白井市立南山中	苅込　英昭	270-1423	白井市南山1-6-1	047-492-1441	印旛
16	中学校部長	若林雅夫	袖ケ浦市立平川中	若林　雅夫	299-0236	袖ケ浦市横田500	0438-75-2141	君津
17	中学校副部長	田村真理	千葉市立千城台西小	市原　直樹	264-0004	千葉市若葉区千城台西2-21-1	043-237-1004	千葉
18	中学校副部長	北島啓行	千葉市立加曽利中	鈴木　雄二	264-0017	千葉市若葉区加曽利町961-5	043-231-1794	千葉
19	中学校副部長	伊藤　肇	四街道市立四街道西中	安西　啓雄	284-0001	四街道市大日23	043-421-2081	印旛
20	中学校副部長	本間照美	八街市立八街中央中	大坊　孝志	289-1115	八街市八街ほ591	043-444-1217	印旛
21	中学校副部長	後藤恒治	茂原市立東中	鵜澤　智	297-0017	茂原市東郷301	0475-24-2141	長生
22	中学校部員	高畠亮策	成田市立久住中	松岡　薫	286-0819	成田市久住中央2-1	0476-36-0602	印旛
23	中学校部員	大和田千裕	船橋市立宮本中	秋山　孝	273-0002	船橋市東船橋7-8-1	047-422-8127	船橋
24	中学校部員	横山由佳子	千葉市立打瀬中	小川　好信	261-0013	千葉市美浜区打瀬3-12-1	043-211-0344	千葉
25	中学校部員	平　大樹	流山市立西初石中	高橋　徹	270-0121	流山市西初石4-455-1	04-7154-3091	東葛
26	中学校部員	佐野貴紀	木更津市立波岡中	矢田　博幸	292-0815	木更津市大久保3-9-1	0438-36-0911	君津
27	中学校部員	小嶋健一	流山市立南部中	鈴木　明裕	270-0176	流山市加3-600-1	04-7158-0137	東葛
28	小学校部長	朝倉真由美	旭市立古城小	朝倉真由美	289-0511	旭市鏑木2699	0479-68-2421	東総
29	小学校副部長	森田典子	南房総市立和田小	森田　典子	299-2703	南房総市和田町仁我浦8-1	0470-47-2064	安房
30	小学校副部長	前田真帆	千葉市立幸町第三小	前田　真帆	261-0001	千葉市美浜区幸町1-10-1	043-241-7807	千葉
31	小学校副部長	近藤昌彦	佐倉市立王子台小	近藤　昌彦	285-0837	佐倉市王子台5-19	043-487-1376	印旛
32	小学校副部長	竹澤英樹	四街道市立八木原小	竹澤　英樹	284-0015	四街道市千代田5-4	043-423-7611	印旛
33	小学校副部長	児玉喜久子	佐倉市立弥富小	金木　勝己	285-0072	佐倉市岩富町145	043-498-0603	印旛
34	調査編集部長	江原雅之	佐倉市立佐倉東中	林田　祐一	285-0046	佐倉市高岡423-1	043-486-3031	印旛
35	調査編集部員	押元　和	南房総市立三芳中	吉田　徹	294-0822	南房総市本織60	0470-36-2017	安房
36	調査編集部員	長野翔伍	船橋市立二宮中	竹下美智男	274-0074	船橋市滝台1-2-1	047-466-2453	船橋
37	広報部長	伊藤芳仁	千葉市立高浜第一小	伊藤　芳仁	261-0003	千葉市美浜区高浜1-4-1	043-246-6262	千葉
38	広報副部長	榊原英記	千葉市立白井中	小林　秀典	265-0053	千葉市若葉区野呂町623	043-228-0201	千葉
39	広報部員	大野　忠	千葉市立松ケ丘中	内山　俊雄	260-0807	千葉市中央区松ケ丘町440	043-261-5261	千葉
40	情報部長	濱田勝久	千葉市立幕張西中	鈴木　義郎	261-0026	千葉市美浜区幕張西2-9-1	043-273-0396	千葉
41	情報部員	藤田伸平	東庄町立東庄中	須藤　壯輝	289-0615	香取郡東庄町青馬1756	0478-86-3131	香取
42	情報部員	七戸亮太	浦安市立日の出中	本山　哲也	279-0013	浦安市日の出3-1-2	047-380-7100	浦安
43	情報部員	菅　整	千葉市立大椎中	今井　功	267-0066	千葉市緑区あすみが丘8-26	043-295-7202	千葉
44	情報部員	深田恵子	千葉市立小中台南小	吉田　悦子	263-0043	千葉市稲毛区小仲台8-15-1	043-255-1441	千葉
45	事務局長	市原喜郎	大網白里市立増穂小	根本　敦	299-3218	大網白里市北飯塚281	0475-72-0213	山武
46	事務局次長	古屋義和	市原市立双葉中	鈴木　恒行	290-0255	市原市光風台1-475	0436-36-6211	市原
47	事務局員	石塚　浩	我孫子市立我孫子中	杉本　明	270-1145	我孫子市高野山537	04-7182-5191	東葛
48	事務局員	藤田展彰	佐倉市立西志津中	石田　賢治	285-0845	佐倉市西志津4-18-1	043-462-1161	印旛
49	事務局員	三瓶繁義	富津市立天羽中	須藤　秀明	299-1608	富津市岩坂109	0439-67-0615	君津
50	事務局員	飯塚　嶺	白子町立白子中	野口　一展	299-4215	長生郡白子町中里860	0475-33-2152	長生
51	事務局員	大河内敦子	流山市立おおたかの森中	田中　弘美	270-0137	流山市市野谷621-1	04-7159-7002	東葛
52	事務局員	淡路倫子	袖ケ浦市立昭和中	林　健司	299-0257	袖ケ浦市神納3204	0438-62-2034	君津
53	事務局員	鳥羽波峰	千葉市立院内小	植草　伸之	260-0007	千葉市中央区祐光1-25-3	043-227-5576	千葉

平成３０年度　＜支部理事＞

No.	支部名	氏　名	勤　務　校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	ＦＡＸ
1	千　葉	大　西　　徹	千葉市立泉谷中	大西　　徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	291-5247
2	市　原	高　田　浩　光	市原市立南総中	齋藤　肇一	290-0509	市原市安久谷140	0436-92-0044	92-4476
3	習志野	三　橋　直　行	習志野市立第三中	富所　　緑	275-0021	習志野市袖ケ浦4-3-1	047-452-0330	452-0324
4	八千代	米　石　達　也	八千代市立睦中	米石　達也	276-0004	八千代市島田台756	047-450-2006	450-5459
5	船　橋	横　山　敏　和	船橋市立芝山中	日高祐一郎	274-0816	船橋市芝山1-40-1	047-464-3448	464-3449
6	市　川	松　田　　智	市川市立福栄中	鈴木　康治	272-0137	市川市福栄3-4-1	047-396-0701	396-0702
7	浦　安	伊　藤　英　樹	浦安市立浦安中	村田　清光	279-0003	浦安市海楽2-36-1	047-351-2686	380-4300
8	東葛飾	渡　辺　雅　裕	柏市立柏第二中	渡辺　雅裕	277-0015	柏市弥生町6-6	04-7164-5770	7166-1908
9	印　旛	工　藤　富士雄	佐倉市立白銀小	工藤富士雄	285-0045	佐倉市白銀1-4	043-483-4611	483-4614
10	香　取	山　本　一　利	香取市立大倉小	山本　一利	287-0013	香取市大倉501	0478-57-0007	50-5085
11	東　総	本　多　　純	匝瑳市立八日市場第一中	平山　仁一	289-2114	匝瑳市上谷中2270-5	0479-72-1185	72-1186
12	山　武	時　津　丈　二	山武市立松尾中	井上　弘道	289-1514	山武市松尾町松尾112	0479-86-4411	86-4228
13	長　生	前　橋　純　一	白子町立南白亀小	前橋　純一	299-4202	長生郡白子町牛込12	0475-33-2151	33-7463
14	夷　隅	原　田　和　徳	いすみ市立国吉中	尾後貫公一	298-0112	いすみ市国府台1552	0470-86-2042	86-4936
15	安　房	渡　邉　弘　仁	鴨川市立長狭中	渡邉　弘仁	296-0112	鴨川市宮山176	04-7097-0176	7097-1891
16	君　津	渡　邊　　修	君津市立周南中	渡邊　　修	299-1117	君津市宮下1-4-1	0439-52-0624	52-0941

＜支部事務局長＞

No.	支部名	氏　名	勤　務　校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	ＦＡＸ
1	千　葉	大　橋　宏　嗣	千葉市立泉谷中	大西　　徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	291-5247
2	市　原	古　屋　義　和	市原市立双葉中	鈴木　恒行	290-0255	市原市光風台1-475	0436-36-6211	36-7673
3	習志野	山　下　欣　宏	習志野市立第五中	宇佐美泰孝	275-0017	習志野市藤崎2-3-16	047-477-6622	477-6630
4	八千代	佐　藤　和　幸	八千代市立大和田中	升野　嘉久	276-0044	八千代市萱田町645	047-484-5071	484-6716
5	船　橋	長　野　翔　伍	船橋市立二宮中	竹下美智男	274-0074	船橋市滝台1-2-1	047-466-2453	466-2434
6	市　川	中　西　　真	市川市立国府台小	中西　　真	272-0827	市川市国府台5-25-4	047-372-4672	372-4673
7	浦　安	関　岡　あかね	浦安市立日の出中	本山　哲也	279-0013	浦安市日の出3-1-2	047-380-7100	380-7105
8	東葛飾	田　代　　浩	流山市立東深井中	片野　全康	270-0101	流山市東深井47	04-7154-5864	7155-1087
9	印　旛	加　藤　恒　樹	印西市立印西中	佐藤　雅之	270-1327	印西市大森2244	0476-42-3151	42-3649
10	香　取	藤　田　伸　平	香取市立東庄中	須藤　壯輝	287-0615	香取郡東庄町青馬1756	0478-86-3131	86-3998
11	東　総	大　木　一　真	匝瑳市立八日市場第二中	椎名　和浩	289-2144	匝瑳市八日市場イ1687	0479-72-1375	72-1376
12	山　武	赤　峰　研　人	横芝光町立光中	上之薗和朗	289-1727	山武郡横芝光町宮川5883	0479-84-1545	84-2874
13	長　生	三ツ本　　勝	長南町立長南中	野口　智美	297-0121	長生郡長南町長南2060	0475-46-1190	46-1262
14	夷　隅	中　村　賢　俊	御宿町立御宿中	関　　正幸	299-5103	夷隅郡御宿町新町68	0470-68-2101	68-2813
15	安　房	押　元　　和	南房総市立三芳中	吉田　　徹	294-0822	南房総市本織60	0470-36-2017	36-2895
16	君　津	福　田　　清	木更津市立畑沢中	平　　一晶	292-0825	木更津市畑沢1053-1	0438-36-5021	36-5044

６　編集後記

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会の１年間の研究活動を「研究のまとめ」としてまとめることができました。原稿執筆に関わった先生方，本当にありがとうございました。

次年度も，各支部の活動報告や各研究大会，ものづくり教育フェアなどの内容を先生方のご協力のもとに編集していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

平成３０年度「研究のまとめ」

発行日　平成３１年２月１日

発行者　千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

代表者　相京　貢

編集者　研究部

野村　英二（佐倉市立志津中学校）　　服部　仁典（松戸市立六実中学校）
三宅　健次（千葉大学教育学部附属中学校）　豊川ますみ（千葉市立大宮中学校）
内藤利枝子（千葉市立末広中学校）　　廣田　恭子（白井市立南山中学校）

顧　問

佐藤　紀夫	菊地　和子	毛利　洋一	関下　裕文	中山　米司	吉原　サト
大塚　文恵	蜂谷　昭夫	板倉　英雄	大嶋　六彦	笹生　芳郎	内山　　猛
田野　定男	田野キヨエ	上原　利雄	野呂　徳則	齊藤　俊夫	福山　武夫
山中　家道	石橋冨士夫	大野　伸子	関　　弘子	佐藤　純次	畠山　和夫
矢﨑　聖二	鈴木　定夫	柗本　　清	石野　清恵	山本惠美子	菅藤　　孝
町田　達雄	鈴木　芳朗	山本　嘉則	加藤　　勇	松岡　和美	庄司　佳子
田島　治子	青木　清一	品地　敏明	宮坂　敬章	天野新太郎	飯塚　　清
戸井　康子	髙山　玲子				